

平成 30 年度 文化庁委託調査研究事業報告書

文化関係資料アーカイブ構築に関する調査研究
～放送番組の脚本・台本のアーカイブ構築に関する調査研究～



文化庁

Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan

一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

目 次

- 巻頭言 『脚本・台本を後世に残す意義』 代表理事 池端俊策
- 寄稿文 『日本放送作家協会と日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム』
一般社団法人 日本放送作家協会理事長 さらだたまこ
- 第1章 本事業の概要と実施状況
- 第2章 脚本の所蔵調査および収集の実施
- 第3章 脚本現物のデジタル化について
- 第4章 目録の作成及びデータベース公開について
- 第5章 大学機関との連携研究、全大学図書館 アンケート
- 第6章 所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究
- 第7章 委員会・シンポジウムの実施
- 第8章 脚本アーカイブズ活動の今後の展望について

巻頭言

『脚本・台本を後世に残す意義』

一般社団法人

日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

代表理事 池端 俊策

1960年代から70年代にかけ、テレビのホームドラマはメシ食いドラマだと揶揄されたことが有ります。家族が一同に会して朝食や夕食を食べながら、家族間の問題を話し合ったり生活の仕方をチェックし合ったり、最後は父親が裁定を下し、あるいは母親が問題の解決法を見つけてめでたく終わるという物語の作り方がドラマをパターン化させていたというわけです。しかし当時は、多くの試聴者が自分達と同様の問題点をドラマの中に見出し、共感したり、又違和感を覚えたりし、メシ食いドラマは日本人の日常の合わせ鏡のように根付いていたと思いま



す。それは当時まだ日本には家族と一緒に食卓を囲むのが当然だという感覚が残っていて、その食卓で話されることも含めてテレビドラマはそうした家族の在りようを日記に綴るように忠実に描いたからだと思います。メシ食いドラマはまさに60年代70年代の日本人の生活の記録であり、文化史であるといえます。

私は今、大河ドラマで戦国時代を書く為、その時代の日本人がどのように生活していたのか知りたいと思い、当時の公家が残した日記などを参考にしています。大納言であった実在の人物が、夏に使う蚊帳を冬になると質に入れて、生活費の足しにするという記述等を目にすると、当時の公家の貧しさや生活感が見事に伝わってきて、公家だけではない日本という国のその時代の空気まで分るような気がします。そういう、時代が残した記録は我々日本人が歩んできた道を示す貴重な財産です。現代におけるテレビドラマも同様です。前述したホームドラマだけでなく、どのようなジャンルのドラマも、その時代を象徴する記録としての側面を必ず内包しているものです。

しかし、映像作品としてのテレビドラマやドキュメンタリー等は、70年代までのものはほぼ失われ、残されているのはその脚本や構成台本だけであるというのが現状なのです。我々は、せめてその作品の元となった脚本や台本を後世に残すべきだと思い至りました。

現在収集中の脚本が、無事にしかるべき公的機関に寄贈され、多くの方々に利用して頂けることを願っています。

【寄稿文】

『日本放送作家協会と日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム』

一般社団法人 日本放送作家協会理事長

さらだたまこ

日本放送作家協会は、日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムの生みの親という関係にある。親である放送作家協会は、今年9月18日に創立60年を迎える。つまり産声を上げたのは1959年のことだ。設立にまつわるエピソードは、当時はまだ黎明期だったテレビ業界のライターたちが「東京ライターズ」なる草野球チームを結成していて、その主だった顔ぶれが設立メンバーになったと伝えられている。

そして、放送作家協会に「日本脚本アーカイブズ特別委員会」が発足したのは2003年。その年の3月に当時理事長であった故・市川森一が、国会・総務委員会にて「脚本・台本は貴重な放送文化遺産である。テレビ放送50年を迎えた今、この膨大な数にのぼる脚本や台本が散逸し、日々、失われつつある。これを管理保存し、資料として体系化することが急がれる」旨の証言をし、超党派の賛意を得たことがきっかけになった。翌々年の2005年に、足立区の支援で北千住「学びピア21」に日本脚本アーカイブズ準備室がオープンし、放送作家協会の文化事業として、脚本の収集活動が始まった。私も、あまり役には立たなかったが、委員会のメンバーとして、委員会が主催する講座などをお手伝いしていた。

2005年は、市川理事長を団長に韓国放送作家協会を表敬訪問し、それがまたきっかけとなって、2006年から13年間開催されてきたアジアドラマカンファレンス（韓国・中国をはじめとするアジア各国の脚本家が参加する会議）に繋がっていくのだけれど、そこではテレビドラマの文化価値だけでなく、国際市場での競争力も問われ、日本の脚本家の評価の高さを改めて再認識するに至った。そこでも脚本アーカイブズの存在意義は大きく、お隣の国の韓国はあつという間に国を挙げて脚本をアーカイブしているのに、日本は後れをとっていることに触発され、2007年より毎年、アメリカ、イギリス、フランス、韓国、中国に調査・視察を行った。私は2008年にイギリス、フランス取材の折に担当したのだが、両国の長い歴史のある脚本収集保存に携わる専門のアーキビスト（フランスではドキュメンタリストと呼ばれていたのに驚いたが！）の仕事ぶりに触れたり、それを養成する機関を訪ねて若い学生と接したことで、脚本アーカイブズという容れ物も必要だが、プロフェッショナルな人材の確保と養成がいかに大切かということを知った。

2000年以降、世の中の中へ至る所にまでIT化の波が押し寄せ、アナログな脚本もデジタル保存が大前提の時代になり、未来を見据えれば、「日本脚本アーカイブズ特別委員会」という放送作家協会の一委員会活動から、もっと大きな組織として機能する「日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム」が2011年に誕生し、放送作家協会から独立したことは、時

代の流れに適ったことだった。

もっとも、自立したわが子の成長を、親としては見守るだけではなく、放送作家協会の文化活動と連携して、本当の生みの親である故・市川森一元理事長の念願を形にするまで、見届けなければいけない。それが協会のミッションであると思う。

日本放送作家協会の活動を顧みれば、脚本アーカイブズの資料となるソースはまだまだある。

ひとつは、広報担当番組として、協会の東海林桂理事（日本脚本アーカイブズ特別委員会の委員でもあった）が企画したラジオ番組『カフェ・ラ・テ』（RFラジオ日本 2007年9月～2017年3月）は、脚本家や放送作家をゲストに、ヒット番組の脚本や台本はどう作られたかを語ってもらうというトーク番組で、私は東海林理事とともに、パーソナリティーを勤めたが、9年半の期間におよそ250名近い作家がそれぞれの脚本論、番組論、ドラマ論を語っているので、その内容はそのままオーラルヒストリーとして、貴重なアーカイブとなるはずだ。

今年、60周年を迎える日本放送作家協会は、記念式典など大きなイベントは今のところ、予定はしていない。それよりも、規模は小さくても数多く、できれば60個は開催しようと、実は昨年からプレイベントと銘打ってトークショーやセミナーを開催したり、また地方の町おこしに繋がる脚本賞や文学賞コンテストの企画や運営に携わっている。脚本アーカイブズとの連携企画としては、お得意のシンポジウムや、特別委員会時代から回を重ねて開催している脚本展などで、世間に広く脚本アーカイブの意義を広める啓発活動となればと考えている。

来年は2020年、東京オリンピックが開催される。2000年に生まれた子どもたちは20歳になる。これから20歳になる子どもたちは生まれながらにしてデジタルネイティブ世代である。彼らにとってテレビとは、私たちがお茶の間で見ていた番組ではなく、スマホで見るコンテンツのひとつである。もっとも、あと20年、そして40年後はスマホで見るコンテンツではなく、きっと違う視聴法になっているだろう。しかし、視聴スタイルがどう変化しても、ドラマを作る根幹にある脚本という概念は変わらない。変化はするだろうが、過去の脚本が常に未来のドラマ脚本の礎になって綿々と受け継がれていくことに変わりない。デジタルネイティブ世代は、日本という社会の枠や、日本語という言語の壁を超えてボーダレスに、シームレスに創作活動を行っていこう。

そうしたデジタルネイティブ世代に、今、そして、これから、放送作家協会が、そして、日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムが何ができるかを考えていかなければならないだろう。還暦を迎えて、人間であれば第一線を退くのであろうけど、組織にはまだまだ先がある。放送作家協会が100年を迎える40年後の景色を私は見られないかもしれないが、来年20歳になる世代には、40年後は輝く未来である。そのとき私たちが収集保存した過去の脚本が黄金の財産となって活用させ、これまでに見たこともない斬新なドラマ作りが活発に行われている光景を、私はひそかに頭に描いている。

第1章 本事業の概要と実施状況

1. 事業名

文化関係資料のアーカイブの構築に関する調査研究
 ～放送番組の脚本・台本のデジタルアーカイブ構築推進の調査研究～

2. 目的

歴史的・文化的価値のある放送（テレビ・ラジオ番組）の貴重な文化関係資料が散逸・消失することがないように、資料の保存及び活用を図ると共に、デジタルアーカイブ構築推進を目的とした調査研究を行う。

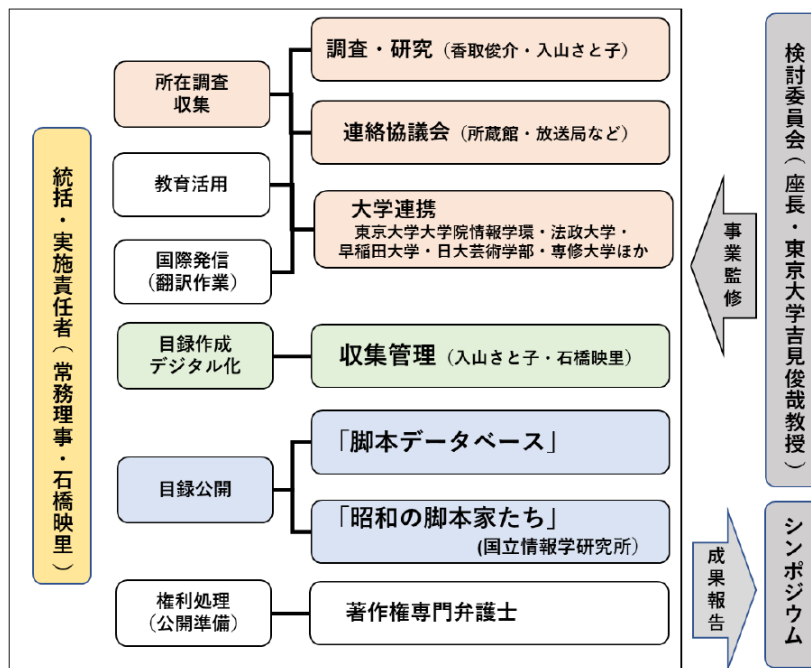
3. 事業期間

2018年6月16日～2019年3月29日

【業務実施日程】

業務項目	実施日程									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 脚本のデジタルアーカイブ化に関する研究	脚本収集、書誌入力随時									
2 目録の作成及びデジタル化（目録に関する研究）	デジタル検討、実施			脚本データベース改修/英語版サイト公開				NDL内で撮影		
3 所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究		地方局との情報交換		脚本所蔵館へのヒヤリング			大学図書館アンケート実施			地方局との情報交換
4 委員会の開催、シンポジウム	理事会			検討委員会			検討委員会		理事会	シンポジウム

4. 実施体制



5. 平成 30 年度の研究調査事業概要

5.1 脚本のデジタルアーカイブ化に関する研究(脚本現物資料の研究)

①脚本の所蔵調査および収集の実施

今年度の寄贈受入れは概算 8,453 冊。うち、1980 年以前の放送番組の脚本は 5,254 冊。昨年度までに寄贈され、倉庫等に保管中の“1980 年以前”の放送番組脚本は、約 2 万 5 千冊を数える。

②脚本現物のデジタル化について

- 劣化資料の全文デジタル化
貴重かつ劣化の激しい昭和 20 年代までの台本を撮影。
- 「表紙」撮影(国立国会図書館所蔵資料)
国会図書館所蔵脚本のうち撮影未了の表紙撮影を実施。
- 「表紙」(川崎市市民ミュージアム所蔵資料)
第二期寄贈分約 8000 冊の撮影実施完了。

5.2 目録の作成及びデジタル化(目録に関する研究)

①目録の作成及び「脚本データベース」の拡充、データの標準化策定

■書誌入力について

- ・収集した脚本について書誌データを入力し、「脚本データベース」に追加掲載した。
- ・書誌データの採取項目を追加した。
追加項目は「演出」「制作・プロデューサー」「音楽」「美術」「その他スタッフ」
「映像の時間数(尺)」「放送された時間」
- ・「出演者」の追記：以前は脚本の出演者項目の始めから 3 名を記入していたが、昨年度より、出演者についても全員の氏名を入力追記している。
- ・「脚本データベース」目録項目の再調査(人名誤記など)を行った。
- ・「あらすじ」を作成し、追加記入を行った。

■データベースの拡充について

- ・脚本データベース英語版サイト公開(2019 年 2 月) <http://db.nkac.or.jp/>
タイトル、人名のローマ字化を実施し英語版サイトを公開した。
- ・海外からの利用を目指すデータベース連携
現在映像産業振興機構(VIPO)が管理する「JACCサーチ」と連携。日本のコンテンツを海外発信する目的で、アニメ、放送、音楽、映画と共に一括検索されている。今年度は書誌の充実をはかり、特に海外から関心が高いアニメ脚本のあらすじ約 58 件を翻訳した。次年度データベースにて公開予定。
- ・ジャパンサーチへの連携参加 <https://jpsearch.go.jp/>
JACCサーチのデータを活用し、ジャパンサーチの連携実証実験に参加した。

②大学機関との連携研究

■**連携大学機関**：東京大学大学院情報学環、早稲田大学、日本大学芸術学部、法政大学、専修大学、国立情報学研究所、国立国語研究所と作品データベースを共同作成中。
昨年度より法政大学多摩キャンパス内に研究場所を設置した。

■**全大学図書館へのアンケート**

大学図書館（国公立、私立大学図書館）1,424 か所、短大・高校専門学校の図書館 245 か所合計、1,667 か所へのアンケート調査を実施した。

アンケート結果より、大学内での脚本の所蔵は大変少ないことが改めて判明した。

国立国会図書館・NDL デジタルコレクションの図書館送信は大学図書館に対しても行われているため、まずはデジタル化した閲覧可能な脚本資料について広く周知してもらう活動に繋げたい。

5.3. 所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究

■**所蔵館の連絡研究**

・過去のヒヤリング調査結果で収集した目録を統合した。

（参加館：国立国会図書館、川崎市市民ミュージアム、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、国立映画アーカイブ、NHK 放送博物館、放送ライブラリー、NHK アーカイブス）

・現在大学連携研究にて構築中のデータベースを利用し、次年度以降、全国の脚本所蔵館の資料の統合検索サイトの実証実験を行う。

■**放送局との連携に向けた研究**

各局のライブラリー部へのヒヤリング調査準備を開始。散逸の危機にある脚本の救済および目録の不明部分（放送年月日など）の追完について、次年度以降に依頼予定。

5.4. 委員会の開催、シンポジウム

■**検討委員会の開催**

・第一回：2018年9月11日

・第二回：2018年12月25日

■**シンポジウム実施**

・2019年3月23日（土）13時半～17時

（於・法政大学市ヶ谷ボワソナータワー26階・スカイホール）

・第一部・基調講演

「平成」という時代—「失われた30年」をアーカイブする（吉見俊哉）

・第二部・パネルディスカッション

『脚本で振り返る「平成という時代」』

ドラマ「バブル」「29歳のクリスマス」から「逃げる女」「半分、青い。」まで

（鎌田敏夫、中村雅俊、岡室美奈子、吉見俊哉、司会：藤田真文）

第2章 脚本の所蔵調査および収集の実施

1. 収集作業について

1.1 平成29年度からの収集の流れ

文化庁からの第一次委託研究事業は平成24年から28年度の5年間で完了し、平成29年度は事業をさらに発展させるための準備期間であった。寄贈受け入れについては、29年度も継続して行った。前年度に脚本家遺族へ手紙で呼掛けた経緯や、日本脚本家連盟、シナリオ作家協会等の関連団体に脚本アーカイブズの活動が周知されてきたこともあり、脚本寄贈の申し出が途切れることはなかった。川崎市市民ミュージアムのご協力により、作業場所をご提供いただき、小山内美江子氏やオフィス・ヘンミからなど大量の寄贈脚本を受入れが実現した。

その後、平成30年度の委託研究調査事業（5年間の調査研究を予定）が再開され、データ入力作業に繋げることが可能となった。

1.2 今年度の収集実績

平成30年度3月末までにカウントできた寄贈脚本は、平成29年度寄贈3,568冊、平成30年度寄贈8,453冊。（図表参照）

現在収集した脚本等の資料数は9万点を超え、国立国会図書館への寄贈検討資料は2万冊（複本含む）以上。今後は目標数を3万点として移管することを目標に調査研究を進めている。特に、貴重な脚本として特筆すべきは、故・筒井敬介（大正7年東京生まれの脚本家、児童文学作家）の『バス通り裏』の脚本等の寄贈である。本番組は昭和38年3月まで5年にわたって放送。日本の帯ドラマの基礎を固める作品となった。生放送だったため映像は全く残っていないという。同じ寄贈者からテレビ放送開始（昭和28年）前年の昭和27年3月23日の試験放送の脚本も頂いた。NHKは、昭和25年2月に技研内にテレビ実験局を開設して、11月からは毎週1日、3時間の定期的な実験電波を発射していたというので、そのための放送台本ではないかと思われる。

1.3 燻蒸作業

川崎市市民ミュージアムでは所蔵資料について年二回の燻蒸作業を行っている。その際、空きスペースをお借りして、脚本資料についても燻蒸を実施した。作業は同ミュージアムの地下にある燻蒸室（右写真）を利用して実施される。

今後も資料整理と同時に第一次的な燻蒸作業の実施を検討している。

以下、収集実績の詳細および各寄贈者の詳細を報告する。



【寄贈者別収集実績：平成 29（2017）年度～平成 30（2018）年度】

【平成29年度】

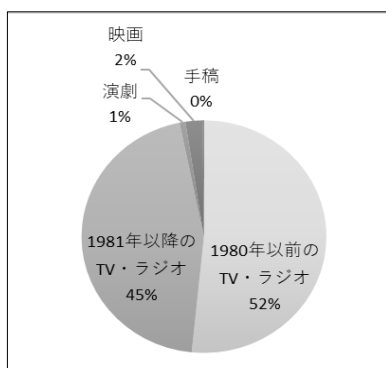
	寄贈元		TV・ラジオ (1980年前)	TV・ラジオ (1981年後)	映画	演劇	アニメ	重複	寄贈者別 冊数
1	岡田光治（故人）	作家	193	11	8		7	32	251
2	谿溪太郎（故人）	作家	126		9	16		10	161
3	山西伸彦（故人）	作家	41	270		1		24	336
4	長谷川公之（故人）	作家		3					3
5	小山内美江子	作家	562	293		4		278	1137
6	古内一成（故人）	作家	18	182	1		111		312
7	幡野みほ	その他	12		1				13
8	宮田達夫（故人）	作家	170						170
9	伊藤豊英	演出		20				37	57
10	NHK川口アーカイブズ	放送局	51	160				88	299
11	土井行夫（故人）	作家	95	3	3	4		10	115
12	HBC放送・渡辺圭一	放送局	165	28					193
13	藤久ミネ	作家	11	2		2		4	19
14	千地浩	作家	83	39					122
15	中村万里子	俳優	334		11	19			364
16	加納守（故人）	作家・演出	33		1				34
	合 計		1894	1011	34	46	118	483	3586

【平成30年度】

	寄贈元	属性	TV・ラジオ (1980年前)	TV・ラジオ (1981年後)	映画	演劇	アニメ	重複	寄贈者別 冊数
1	中村すみ（故人）	俳優	31	2	27	56	2	18	136
2	オフィスヘンミ	制作会社	3423	278					3701
3	志鷹愛子	その他		6	1	1		6	14
4	関佳史	制作		32	9				41
5	轡田剛之	その他	1						1
6	小林政広	作家		170	4			13	187
7	宮田達夫（故人）	作家	117		3	2		2	124
8	掛札昌裕	作家、演出	281	79	230	4	3	5	602
9	鷹森立一	演出	163	311	134			60	668
10	小山内美江子	作家		62					62
11	長沢大	俳優	1	56	2	4		9	72
12	浅野妙子	作家		59	6				65
13	伊藤豊英	演出	2	5				12	19
14	竹柴純平（中村万里子・夫）	狂言作家、演出				261			261
15	岡田晋吉	演出、制作	261						261
16	筒井敬介（故人）	作家	941						941
17	宮川一郎（故人）	作家	30	47	1	64			142
18	NHK川口アーカイブ	関連団体							0
19	日本脚本家連盟	関連団体	1						1
20	飯塚利一	その他	2		4				6
21	宮川一郎2（故人）	作家		111	98				209
22	砂田寛人（木下ほうか・代理人）	俳優		335	123				458
23	荒島晃宏	作家					38		38
24	笹本泉	制作		95					95
25	吉岡たかを	作家					264		264
26	清水満	演出		85					85
			5254	1733	642	392	307	125	8453

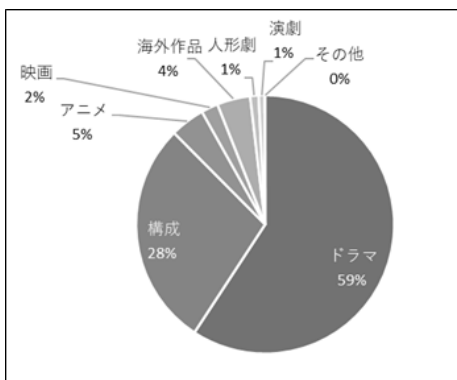
【移管・保管状況】（平成 31（2019 年）3 月末現在）

分類	寄贈・移管先	現在の総計	H29～30年度	H28年度	H27年度	H17年～26年 度
1980年以前の放送（移管済）	国立国会図書館	27,219				27,219
1980年以前の放送脚本	住友倉庫保管	25,421	6,207	11,264	6,811	1,139
1981年以降の放送脚本	川崎市市民ミュージアム（23,840冊公開済）	24,845	2,324	1,817	5,159	15,545
映画シナリオ	国立映画アーカイブ(955冊倉庫保管)	2,286	553	99	439	1,195
演劇台本	早稲田大学 坪内博士記念演劇博物館(803冊倉庫保管)	1,257	438	168	243	408
生原稿（世田谷由来の作家のみ）	世田谷文学館	91				91
生原稿（NHK放送分）	倉庫保管（NHK放送博物館と交渉中）	434				434
アニメ	川崎市市民ミュージアム保管	3,282	123	1,655	199	1305
放送禁止台本、個人情報資料など	川崎市市民ミュージアム保管	100				100
歌謡ショー等イベント	住友倉庫保管（移管先未定）	421			13	408
複本	法政大学多摩校倉庫保管（移管先交渉中）	4,994	608	833	374	3,179
複本	寄贈元放送ライブラリーへ返却	2,103		1300		803
N H K 放送の複本	N H K アーカイブス	633		633		
劣化、個人資料など	返却・廃棄	678			600	78
	総計	93,778	10,253	17,769	13,838	51918



【公開資料の内訳】

資料分類	寄贈移管先	冊数
1980年以前の放送脚本	国立国会図書館	27,219
1981年以降の放送脚本	川崎市市民ミュージアム	23,840
演劇・舞台の台本	早稲田大学演劇博物館	408
映画シナリオ	国立映画アーカイブ	1,195
手稿の脚本	世田谷文学館	91



【ジャンル別資料収集数の内訳】

ジャンル	冊数
ドラマ	41,397
構成	19,780
アニメ	3,028
映画	1,480
海外作品	2,907
人形劇	737
演劇	526
その他	36
合計	69,891

※Web 公開中の
脚本データベース
掲載資料の内訳

2. 寄贈者別詳細

■故・岡田光治氏

昭和7年、東京生まれ。日活を経て、ドラマ脚本家として活躍。『岐路』『非情のライセンス』など数多くのドラマを手がけた。平成29年1月、奥様の則子様より段ボール7箱に詰められた脚本を宅配便にてご送付いただいた後、光治氏は平成30年5月に85才で亡くなられた。ご寄贈いただいた脚本は『七人の刑事』『非情のライセンス』『大学は花ざかり』『開化探偵帖』『文吾捕物控』『ザ・ボディガード』『同心暁蘭之介』など、昭和30年～50年代に氏が執筆したドラマ脚本と『嫁と姑』『汚れた顔の月』『CM グラフティ 殺しのゲーム』などの映画脚本、『栄光の背番号3 ミスタージャイアンツ』『スーパーゼロ』などのアニメ脚本等々、併せて251冊。ドラマ以外にも『日本プロ野球戦後史』や『日本1965』などのドキュメンタリー番組の脚本もあり、幅広いジャンルの映像制作に携わっていたことが覗える。

■故・山西伸彦氏

元放送作家協会理事で脚本アーカイブズの前身である日本脚本アーカイブズ特別委員会の会員として活動。元々は作家志望だったが学生時代に自費出版した『仮面の笑い』という本が放送作家・南川泰三さんの目にとまり芝居の手伝いに誘われたことが放送の世界に入るきっかけに。演芸、報道、情報、ドキュメンタリー等幅広いジャンルの仕事をこなし、『サンデーモーニング』『噂の東京マガジン』等の番組構成を手がけた。平成26年4年1月に61才で死去。平成29年2月、奥様の京子様から昭和時代の脚本336冊をご寄贈いただいた。高島忠夫・寿美花代夫妻が司会を務めた料理番組『ごちそうさま』や『みのもんたの家族対抗!!芸能クイズ』『知っテレビジョン』『どんなモンダイQテレビ』等、家族揃ってお茶の間で楽しむ1970年代～80年代の家庭生活が垣間見える構成台本が多数。奥様は平成に入ってから構成台本もいずれ寄贈したいとのご意向である。

■小山内美江子氏

シナリオ作家協会を通してご本人よりご寄贈の申し入れがあり、平成29年5月、鶴見のご自宅に引き取りに伺った。当時87才の小山内氏は3月にカンボジアを訪れた際に高熱で倒れたものの無事回復し帰国された直後であったが、カンボジアでのボランティア活動や親交のあった故・渡瀬恒彦氏の思い出など快活にお話してくださった。衣装ケース12箱の中には『3年B組金八先生』をはじめ連続テレビ小説『マー姉ちゃん』『本日は晴天なり』、大河ドラマ『徳川家康』『翔ぶが如く』などの有名なドラマ台本がぎっしりと詰められていた。年代毎に箱が分けられており、初期の作品群は『アイフル大作戦』『バーディ大作戦』等のお色気アクションドラマや『七人の刑事』『特別機動捜査隊』『刑事くん』等の刑事ドラマ、『青空に叫ぼう』『炎の青春』等の学園ドラマ、『さむらい』『右門捕物控』等の時代劇とあらゆるジャンルのドラマ脚本が混在しており、幅広く活躍されていたことがうかがえる。

この時ご寄贈いただいた 1137 冊の脚本に加え、一年後の平成 30 年 5 月に『3 年 B 組金八先生』の手稿と資料の入った段ボール 4 箱もご寄贈いただいた。手稿については、デジタル化による保存を検討中である。

■故・古内一成氏

平成 28 年 7 月に 60 才で亡くなられた翌年 6 月、奥様からご寄贈いただいた。「手放すと寂しくなると思いなかなか送れずにいました」とお気持ちを綴ったお手紙とともに、デビュー作の『太陽にほえろ!』をはじめ、『ジャングル』『NEW ジャングル』『刑事貴族』等の刑事ドラマ、NHK 教育で放送された『はばたけ 6 年』、人気アニメ『名探偵コナン』のテレビシリーズと映画台本等々 312 冊が丁寧に梱包された状態で送られてきた。テレビシリーズのコナンの脚本には各話毎の詳細なあらすじがついており、アニメ脚本データベースの充実のための活用を検討中。

■HBC 放送

『東芝日曜劇場』の脚本と、『月曜ドラマスペシャル』、『ドラマ 30』の枠で放送された脚本と資料併せて 193 冊をご寄贈いただいた。『東芝日曜劇場』は TBS や系列の局で制作された 1960 年～65 年の脚本が半年分毎に 10 冊の合本にまとめられているものと 1980 年以後に HBC 北海道放送で制作されたバラの台本 25 冊の二種類に加え電通がまとめた昭和 35 年度と 39 年度の放送記録の冊子資料 2 冊。今後『東芝日曜劇場』を研究するうえで貴重な資料となる脚本群である。『月曜ドラマスペシャル』は大滝秀治主演の『退職刑事シリーズ』や『終着駅』『遠い雪の記憶』などいずれも北海道を舞台に HBC が制作したドラマ脚本。『ドラマ 30』は『夏休みドラマスペシャル』として各週オムニバスで全国の TBS 系列が制作したシリーズの中の HBC が制作した『カントリー・ロード』の脚本。いずれも HBC に長年保存されていた脚本で重複分をいただいた。HBC 以外にも古い脚本の保存に悩む地方の放送局があると思われるので、今後担当者と連絡をとって連携を進めていきたい。

■故・中村すみ氏

平成 29 年 11 月女優の中村万里氏より、お母様で関西言葉指導の故・中村すみ氏が所蔵していた脚本寄贈の申し入れがあり、すみ氏が住まわれていた所沢市のご自宅に引き取りに伺った。中村すみ氏は大正 12 年上海生まれ。5 歳で大阪に戻り昭和 17 年 NHK の大阪放送劇団に第 2 期生として就職。終戦後、銀行員の金井氏と結婚、昭和 23 年に長女・万里氏を出産。昭和 25 年に金井氏の東京転勤に伴い上京。大阪から上京していた『淀の会』という声優のグループに入りラジオドラマで活躍された。ご寄贈いただいた脚本で最も古いものは昭和 22 年、大阪中央放送局（現・NHK 大阪放送局）制作のラジオドラマ『遠い朝』（脚本：水木洋子、梅本重信）。この台本をはじめ昭和 20 年代のものと確定できるラジオドラマ台本 30 冊を含む 341 冊をご寄贈いただいた。NHK 連続ラジオ小説『幸福さん』、文化

放送『フクちゃん』『おヤカマ氏とおイソガ氏』、ニッポン放送『サザエさん』などの人気ラジオドラマにレギュラー出演。出演された脚本には、配役が手書きで記され、ご自分のセリフの箇所には赤鉛筆で印をつけられている。収録現場に幼かった万里氏を連れて行くことが度々あり、万里氏は子どもの声が必要なドラマに飛び入りで出演させられるなどして子役の道に進み、以後女優として『コメットさん』『2丁目3番地』『花もめん』『サヨナラ三角』などのテレビドラマに出演された。万里氏が出演された『子供の時間 子熊のクロちゃん』や『おはなしでてこい』『にあんちゃん』などの作品もご自身の出演番組とは別にしてきちんと保管されていた。その後、『特ダネを逃がすな』『台風家族』等のテレビドラマに出演するが「テレビはセリフを覚えるのが大変」（万里氏・談）ということで海外ドラマ『パパはなんでも知っている』等の吹き替えや映画『女の勲章』『がめつゝい奴』『女であること』『春琴抄』等の関西言葉指導の仕事にシフトされていった。万里氏からは、平成30年1月にも御自身が所属されていた劇団NLT関連の戯曲、パンフレット等をご寄贈いただき、11月には夫君の狂言作家・竹柴純平氏が保管されていた300冊近い歌舞伎台本と図面・パンフレットなどの資料を多数ご寄贈いただいた。

■故・加納守氏

元・NHKの演出家、脚本家。平成17年に亡くなられたが、ご遺族にあてて脚本家連盟から脚本寄贈を呼掛けたアーカイブズの手紙を娘・千砂子氏がお母様の遺品から見つけて連絡をいただき、演出も含め守氏に関わった番組の脚本34冊をご寄贈いただいた。昭和30年代放送の『ビルマの豎琴』、『風雪』、40年代の銀河小説『春の城』などのドラマ台本やドキュメンタリー番組『かえるはうたう』など、いずれもテレビ放送草創期を物語る台本ばかりである。演出に携わった脚本には守氏の手による書き込みが多数散見。「父は演出のみの脚本も自分で書き直し、よく脚本家の方とケンカしていました」（千砂子氏・談）という、演出家の頃から作家性も高かった守氏の性分が垣間見える資料である。

■オフィス・ヘンミ

オフィス・ヘンミは、テレビプロデューサー故・逸見稔氏が設立した制作会社。逸見稔氏は昭和8年神奈川県生まれ。慶応義塾大学卒業後、松下電器産業に入社。東京宣伝部でCM（『明るいナショナル』等）を任された後、ドラマ担当となり、スポンサー側のプロデューサー『クライアントプロデューサー』として番組制作に参加。昭和41年開始のNETテレビ（現・テレビ朝日）の『ナショナルゴールデン劇場』でドラマを制作。森繁久彌主演の『だいこんの花』はヒット作となった。昭和44年開始のTBS『ナショナル劇場』では『水戸黄門』をスタート。同枠で『大岡越前』『江戸を斬る』など立て続けにヒット作を企画制作。プロデューサーとして作家集団『葉村彰子』を結成。高名な脚本家や監督を起用しながらも、物言うプロデューサーとして、納得いくまで脚本の改稿や映像の再編集を要求し続けた。平成7年に稔氏が亡くなった後もオフィス・ヘンミは存続していたが、平成24年、所属スタ

ップであった中村和則氏が新規法人『株式会社オフィス・ヘンミ・クリエイティブ』を設立。オフィス・ヘンミの制作部門はこの新規会社に継承された。

横浜市弘明寺にある稔氏のご自宅に伺い、オフィス・ヘンミが手掛けたドラマの脚本・資料約 3700 冊（段ボール 50 箱分）を川崎市市民ミュージアムに搬出した。

脚本はほとんど稔氏の手により合本されたもので、中の台本は書き込みもなく綺麗な状態である。『ナショナルゴールデン劇場』では『じゃがいも』『だいこんの花』（脚本・向田邦子）、『ねぎぼうずの唄』『にんじんの詩』（脚本・窪田篤人）、『黄色いトマト』『どてかぼちゃ』『さやえんどう』（脚本・松木ひろし）等の野菜シリーズ、『十一番目の志士』（脚本・山田信夫）、『お吟さま』（脚本・田中澄江）等の時代劇、『逃亡』（脚本・成沢昌成、原作・松本清張）、『女の中の悪魔』（脚本・田中澄江、原作・由起しげこ）等のミステリー、『青年の樹』（原作・石原慎太郎）等の青春ドラマなど幅広いジャンルのドラマを制作していた。ナショナル劇場の『水戸黄門』は、全 43 シリーズ中、36 シリーズまで、『大岡越前』は全 15 部等の時代劇シリーズの他にも『七人の孫』『光る海』『SHは恋のイニシャル』等の現代劇も多数。他に石立鉄夫主演の『パパと呼ばないで』『水もれ甲介』『雑居時代』、『スター劇場』の『おかめひょっとこ』等々。すでに俳優、脚本家、監督から寄贈を受けている脚本もあるが、合本でまとまっているので抜けが少なく、今までのシリーズ物で欠けていた脚本を埋めてくれる一括大量寄贈となった。

■関佳史氏

tvk コミュニケーションズ代表取締役社長。昭和 54 年、テレビ神奈川入社後、音楽番組や、ドラマ・映画・バラエティ番組の制作に携わる。編成部長時代にライツ事業部と提携し、東名阪ネット 6（テレビ埼玉、千葉テレビ放送、テレビ神奈川、三重テレビ放送、京都放送、サンテレビジョン）のコンテンツを開発。平成 30 年 3 月に、東名阪ネット 6 等で放送された『サンシャインデイズ』『ネコナデ』『鉄道むすめ』『幼獣マメシバ』などのドラマ脚本とドラマから映画化された映画脚本併せて 41 冊を寄贈いただいた。

■小林政広氏

昭和 29 年生れの映画監督、脚本家。昭和 57 年に『名前のない黄色い猿たち』で第 8 回城戸賞受賞。以後、『伊賀のカバ丸』『痛快！婦警候補生やるっきゃないモン！』『これでいいのだ』『おごるな上司』等のテレビドラマ脚本やピンク映画脚本を多数執筆。平成 8 年に『CLOSING TIME』で映画監督デビュー。平成 30 年 4 月、1980 年～90 年代にかけて自身が執筆したテレビとラジオのドラマ脚本と映画脚本、併せて 187 冊を寄贈いただいた。

■掛札昌裕氏

昭和 13 年東京生まれの脚本家。慶應義塾大学卒業後、東映に入社。京都撮影所で助監督となった後、企画部に移りシナリオライターに。昭和 45 年、フリーの脚本家となる。東映ポ

ルノ映画の他、『トラック野郎』全シリーズの脚本を担当。他にも喜劇、空手アクションなどの映画作品とともにテレビドラマの脚本も多数手がけられた。平成 30 年 6 月、シナリオ作家協会を通じて掛札氏より脚本ご寄贈のお申し出があり、巣鴨のご自宅まで引き取りに伺った。今回ご寄贈いただいたのは 1960 年代～70 年代の『河童の三平』『丸出だめ夫』『柔道一直線』『G メン 75』『鉄道公安官』『ベルサイユのトラック姐ちゃん』『水戸黄門』『忍法かげろう斬り』『忍者ハットリ君』等の漫画やアクション中心のドラマ群と 1980 年以後の『遠山の金さん』や特撮『時空戦士スピルバン』のドラマ脚本 365 冊と『エロ将軍と 21 人の愛妾』『赤線トルコ風呂』等のポルノ映画や『けんか空手 極真無頼拳』『空手バカ一代』等のアクション映画等 230 冊、『視線クラブ』『女社長アンナ』『隼風の仙太』の演劇台本 3 冊等、資料も含め 602 冊。橋田壽賀子氏が手がけた『泣いてたまるか』など掛札氏以外の脚本家による執筆脚本も多数含まれている。

■故・鷹森立一氏

大正 14 年東京生まれの映画監督。早稲田大学卒業後、東映に入社。東京撮影所にて助監督を務め、昭和 39 年監督デビュー。千葉真一主演の『子守歌シリーズ』『やくざ刑事シリーズ』などの監督や脚本を手がける傍ら、テレビドラマの監督として『キイハンター』『アイフル大作戦』『バーディ大作戦』『G メン 75』『柳生一族の陰謀』等を手がけ、晩年まで『火曜サスペンス劇場』の演出を中心に活躍。平成 23 年 12 月に 86 才で亡くなった。平成 30 年 6 月、鷹森立一氏のご遺族からご寄贈のご連絡をいただき、世田谷のご自宅まで引き取りに伺った。ご自宅 2 階の押し入れに並べられた脚本を車に積み込み搬出。ほとんどが撮影現場で使用した台本で、配役やカット割り、演出プラン等が鉛筆で書き込まれている。『三匹が斬る!』『キイハンター』『G メン 75』『影の軍団』等のアクションドラマをはじめ、『はぐれ医者お命お預かりします』、TBS の『赤いシリーズ』の『赤い秘密』、『はぐれ刑事純情派』日本テレビ『火曜サスペンス劇場』の『弁護士高林鮎子』や『監察医室生亜希子』『取調室』シリーズ等 688 冊の脚本をご寄贈いただいた。

■長沢大氏

昭和 15 年長野県生まれの俳優。平成 30 年 8 月、川崎市市民ミュージアムに電話でご寄贈のご連絡をくださったのを受け、ご自宅に引き取りに伺った。古い脚本は既に処分されてしまっていたが、平成 23 年まで出演されていたラジオドラマ『青春アドベンチャー』『FM シアター』『ラジオ図書館』をはじめ、脇役で出演された大河ドラマ『北条時宗』『義経』、銀河テレビ小説『総務部総務課 山口六平太』等の脚本 72 冊をご寄贈いただいた。

■岡田晋吉氏

昭和 10 年神奈川県生まれのテレビプロデューサー。慶應義塾大学卒業後、日本テレビに入社。チーフプロデューサー、芸能局長を経て中京テレビ制作本部長兼取締役役に就任。その

後、副社長を務め定年退職後川喜多記念映画文化財団常務理事、日本テレビ顧問。

平成 30 年 11 月、日本橋の事務所に保管してあった岡田氏の脚本を引き取りに伺った。今回ご寄贈いただいたのは、昭和 41 年に始まった熱血教師が主人公の青春シリーズ、『青春とはなんだ』『これが青春だ』『でっかい青春』『進め！青春』『飛び出せ！青春』『青春ド真ん中』『われら青春』、昭和 49 年に始まった『俺たちシリーズ』の『俺たちの勲章』『俺たちの旅』併せて 261 冊。

■故・筒井敬介氏

大正 7 年東京生まれの脚本家、児童文学作家。慶應義塾大学在学中に劇団の活動を始め、昭和 16 年に中退。ラジオドラマの脚本を書き始め、昭和 33 年に放送開始のテレビドラマ『バス通り裏』の脚本を須藤出穂氏と担当。同ドラマは毎週月曜～金曜（終盤は土曜まで）放送の連続ドラマで好評を博し、昭和 38 年 3 月まで 5 年にわたって放送。日本の帯ドラマの基礎を固める作品となった。その後、児童文学で活躍し昭和 48 年に『かちかち山のすぐそばで』が産経児童出版文化賞を受賞。翌年、同作品は国際アンデルセン賞の優良賞を受賞。昭和 58 年、巖谷小波賞受賞。著書の『コロケ町のぼく』は少年ドラマシリーズでドラマ化。昭和 61 年に紫綬褒章受章。平成 17 年、87 才で死去。

平成 30 年 11 月、娘の小西理加さんよりご寄贈のお申し出をいただき、平成 31 年 2 月まで断続的に宅配便にてご送付いただき、現在、段ボール 18 箱にもなる大量の脚本と資料をご寄贈いただいた。ご寄贈いただいた脚本の中で特に目をひいたのは、昭和 28 年のテレビ放送開始の前年、昭和 27 年 3 月 23 日の試験放送の脚本。NHK は、昭和 25 年 2 月に技研内にテレビ実験局を開設して、11 月からは毎週 1 日、3 時間の定期的な実験電波を発射していたというので、そのための放送台本ではないかと思われる。表紙には『放送記念特別番組 日曜特別放送 マリオネット 猿飛佐助 免許皆伝の巻（或いは恋と忍術の巻）』と書かれている。作者は「藻寄」となっており、筒井氏執筆ではない可能性もあるが、劣化が激しく、年代的にも貴重な資料なので表紙と前付けにあたる部分をデジタル撮影で保存した。分量では 5 年間放送された『バス通り裏』の脚本が多く、現在入力を終えたものだけでも 200 冊以上になる。アーカイブズには今まで故・須藤出穂氏からご寄贈いただいていた 2 冊しか所蔵がなく、NHK にも映像の保存はないということなので、『バス通り裏』の内容や話の流れを後世に語り継ぐ貴重な資料である。月曜から土曜まで 15 分の放送というスタイルは現在の連続テレビ小説と同じであるが、5 年間通しで一つの作品を執筆されるのは大変なご苦労があったようで、寄贈に際し娘の理加さんは「父は画板を下げて毎朝駅に行き、駅で原稿を書き上げそのまま放送局に届けて夕方家に戻るといった毎日でした」と述懐されている。

また、テレビ放送に先駆けて執筆していたラジオドラマの脚本も多数保存されており、昭和 20 年代後半に執筆された青インクでガリ版刷りの脚本も多数ご寄贈いただいた。こちらも劣化によって読めなくなる可能性が危ぶまれるので、ご遺族の許諾を得てデジタル化を

すすめていきたい。現在、資料も含めてデータ入力済みの脚本は 800 冊以上。最終的には 1000 冊を超える見込みである。



「バス通り裏」の脚本

テレビ放送開始（1953年）の前年（1952年3月23日）試験放送の台本

■木下ほうか氏

昭和 39 年大阪生まれの俳優。昭和 55 年、映画『ガキ帝国』のオーディション合格をきっかけに俳優デビュー。大阪芸術大学卒業後、吉本興業大阪本社に入社し、吉本新喜劇団に入団するが、目立つ役がつかず新喜劇の低迷期とも重なり 3 年後に退団。平成元年、『ガキ帝国』の井筒監督を頼り上京。V シネマから深夜ドラマ、サスペンスドラマ、連続テレビ小説等に脇役として活躍の場をひろげ、平成 26 年『昼顔～平日午後 3 時の恋人たち～』で注目される。『痛快 TV スカッとジャパン』のイヤミ課長などの個性的な役柄を担当し、人気バイプレーヤーとして活躍中。平成 31 年 2 月、代理人の砂田寛人氏よりアーカイブズに連絡があり、大型段ボール 5 箱の脚本を宅配便にてご寄贈いただいた。1990 年代～2018 年までの V シネマ、単発ドラマ、連続ドラマ等、400 冊以上のまさに『平成』という時代を物語る脚本群である。

今年度末の平成 31 年 2 月から 3 月の間に、脚本家・荒島晃宏氏より『はい、あっこです』『三国志』『みつばちハッチ』などの昭和のアニメ脚本 38 冊、フジテレビプロデューサー・笹本泉氏より『北の国から 92 巣立ち』以後の『北の国から』シリーズや『並木家の人々』などのテレビドラマ脚本 95 冊、脚本家・吉岡たかを氏より『桜子さんの足下には死体が埋まっている』等のアニメ脚本 264 冊、演出家・清水満氏よりテレビドラマ『新・天までとどけ 1～5』『三婆』などのテレビドラマ脚本 85 冊の寄贈があり、来年度以後、整理分類・データ入力作業をすすめる予定である。

第3章 脚本現物のデジタル化および権利関係

1. 現物デジタル化作業について

今年度は電子化作業として、3つの工程に分けて実施した。

【1】国立国会図書館内での表紙撮影

平成26年～平成28年度までの文化庁委託研究事業の一環として、国立国会図書館内にて、デジタル化専門業者による脚本の表紙部分の撮影を実施した。今回は継続研究事業として、中性紙箱に保存して配架されていた脚本資料などの撮影を実施した。

今年度の撮影実施により、国立国会図書館に寄贈した脚本資料について、すべて表紙画像を取得したことになる。

この画像は、すでに脚本データベースに掲載され、Web公開されている。

元禄忠臣蔵	
作家	嵐谷雄一
原作者	奥山青崖
放送局	ラジオ東京
放送日	1952/10/18
放送回	2
管理番号	N01-45172-00
かな	ゲンロクチュウシングラ
ローマ字	GENROKUCHUUSHINGURA
分類	台本
メディア	ラジオ
ジャンル	ドラマ
収録先	国立国会図書館

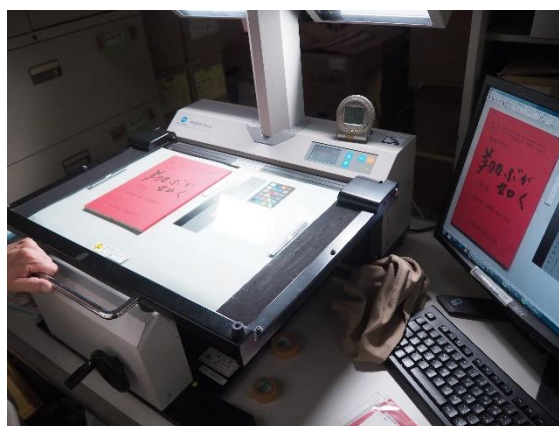
※[]内の情報は当団体の独自調査による参考情報であり、書籍原本に記載のあるものではありません。
※映画、演劇に関しては、放送日の欄の記載は「公開日」「公演日」になっております。
[Wikipedia記事へ](#)

※脚本データベースより
ラジオ脚本「元禄忠臣蔵」
(1952年) db.nkac.or.jp

【2】川崎市市民ミュージアム書庫内での表紙撮影

第一期川崎市市民ミュージアム寄贈脚本(2017年公開分)については、スタッフによりスキャン作業を行った。今回はその後、寄贈公開中の脚本資料について撮影を実施した。

データの品質と画像と書誌データの確認作業、人件費を勘案検討し、今年度は専門業者へ作業依頼した。公開中の資料を持ち出せないことから、書庫内での撮影作業となった。



【3】貴重書の全文電子化

今年度から、倉庫保管中の脚本の保存を目的に全文のデジタル化を実施している。

戦後から昭和30年代までは、脚本に使われる紙の質が悪く、インクもガリ版りで青インクのものも多く見受けられる。紙の酸化および文字の色の後退もみられる。

今回は、作家川島順平氏のご遺族の了解を頂き、119冊を撮影した。Web公開についても許諾を頂いているため、今後、データベースなどに掲載する方法を検討する。

下の写真は青字でガリ版印刷されたラジオ作品「トランク」(昭和24年2月22日放送)。紙やインクの劣化状況がうかがえる。



東西コンテスト

トランク

作家	川島順平
放送局	JOBK
放送日	1949/2/22
主な出演	山賀長治
かな	トランク
ローマ字	TORANKU
分類	台本
メディア	ラジオ
ジャンル	ドラマ
收藏先	倉庫にて保管中
閲覧注記	※状態の劣化により閲覧不可場合があります。

脚本データベースより、入力された書誌情報が検索できる。劣化の注記も表示される。

以下、作業仕様についての詳細を報告いただいた。

2. 平成 30 年度 放送脚本資料電子化作業の実施概要について

(報告：株式会社ニチマイ)

【1】 国立国会図書館内での表紙撮影

(1) 作業内容

脚本資料の表紙部分のみをスキャニングし、画像データを作製
スキャニング作業は、全て国立国会図書館指定場所にて実施

(2) 作業工程について

- 1) 作業分の資料と資料リストとの照合を含む、スキャニング作業前整理作業
 - 2) スキャニング作業
 - 3) 一次画像検査作業（資料と画像の照合によるスキャニング漏れの検査）
 - 4) 二次画像検査作業（画質、傾き等の画像検査）
 - 5) 画像ファイル変換作業
 - 6) 最終検査及び納品メディアへの格納作業
- ※1) 2) 3) の作業は国立国会図書館内にて実施、4) 5) 6) は弊社にて実施

(3) 電子化仕様

- 1) 解像度：400dpi
- 2) 認識サイズ：原寸認識
- 3) 階調特性：24 ビットフルカラー
- 4) データ形式
 - ①JPEG2000
 - ②PDF
- 5) 格納メディア
HDD

(4) 使用スキャナー

コニカミノルタ社製 EPICWIN5000CMK II Lab ×1 台（弊社所有機器）



スキャナー仕様

出力解像度	200、240、300、400、600（光学解像度 400dpi）
スキャンモード	24bit カラー、8bit グレイスケール、2 値
原稿サイズ	330mm×460mm
サイズ	W674mm×D787mm×H918mm
生産国、メーカー	日本 コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社

※EPICWIN5000CMK II Lab の画像及び仕様はコニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社の当該機カタログより抜粋。

(5) 作業実施時期・場所等

1) 全作業期間及び国立国会図書館内作業期間等

①全作業期間：平成 31 年 2 月 26 日～平成 31 年 3 月 27 日（作業日数：16 日間）

②国立国会図書館内作業期間

・機材搬入及び搬出：

平成 31 年 2 月 26 日弊社スキャニング機材等搬入／平成 31 年 3 月 22 日機材搬出

・実作業日：平成 31 年 2 月 26 日、27 日／平成 31 年 3 月 12 日～15 日

③作業時間：9 時～17 時

2) 作業場所

・国立国会図書館地下 6 階書庫内

3) 作業体制

①国立国会図書館内作業 表紙部分のスキャニング作業

（スキャニング前整理作業、一次画像検査作業も兼務）

スキャニング作業員 1 名（文書情報管理士 1 級）

※平成 31 年 2 月 26 日及び 3 月 12 日は作業補助者（文書情報管理士 1 名）も作業従事。

②二次画像検査作業：1 名

③ファイル変換、成果物作製等作業 2 名（内 文書情報管理士 1 級 1 名）

4) 作業数量

・表紙部分のスキャニング作業 2,137 ファイル

(6) その他

1) 資料状態について

資料の一部については劣化しているものがあつた。

2) 資料取扱いについて

封筒からの出し入れ時に、封筒に資料が引っ掛かる等で資料が傷まないように留意して作業を行った。

3) 資料の管理について

資料点数の管理・・・作業前に資料確認をおこなって資料点数管理を行った。

資料と封筒の管理・・・脚本資料は封筒にはっている状態であり、スキャニング作業に当たり封筒からの資料の出し入れは1点1点ずつ行った。脚本資料本体には管理番号等ラベルが貼付されないの、封筒への戻し間違い等起こらないように実施した。

4) 資料形態等

・合冊製本されている資料について、脚本の表紙のみスキャニングを行ったので問題なかったが、合本製本の綴じがきつく本文に係っている脚本が多くあったので、本文をスキャニングする場合には解体等の解決策の検討が必要と考える。

・合冊製本の場合、合冊製本の表紙が台本の表紙ではないので注意した。

・資料管理と作業効率上、リストと保管されている資料の並びが今回のように一致していることが重要と考える。

(資料リストと保管されている資料の並びが一致していない作業前の読み合わせ等が困難になり資料管理が煩雑になってしまい、作業進捗にも影響が出てくる恐れがある。)

【2】川崎市市民ミュージアム書庫内での表紙撮影

(1) 作業内容

脚本資料の表紙部分及び本文部分をスキャニングし、画像データを作製。スキャニング作業は、全て川崎市市民ミュージアム指定場所にて実施した。

(2) 作業工程について

- 1) 作業分の資料と資料リストとの照合を含む、スキャニング作業前整理作業
- 2) スキャニング作業
- 3) 一次画像検査作業 (資料と画像の照合によるスキャニング漏れの検査)
- 4) 二次画像検査作業 (画質、傾き等の画像検査)
- 5) 画像ファイル変換作業
- 6) 最終検査及び納品メディアへの格納作業

※1) 2) 3) の作業は川崎市市民ミュージアム内にて実施、4) 5) 6) は弊社にて実施

(3) 電子化仕様 (上記、国立国会図書館作業と同一)

(4) 使用スキャナー (上記、国立国会図書館作業と同一)

(5) 作業実施時期・場所等

- 1) 全作業期間及び川崎市市民ミュージアム内作業期間等

①全作業期間：平成30年8月8日～平成30年10月23日 (作業日数：52日間)

②川崎市市民ミュージアム内作業期間

・機材搬入及び搬出：

平成 30 年 8 月 8 日弊社スキャニング機材等搬入／平成 30 年 9 月 19 日機材搬出

・実作業日：平成 30 年 8 月 8 日～9 月 15 日（火曜日～金曜日稼働（月曜日は休館日））

③作業時間：9 時 30 分～17 時（17 時退館）

2) 作業場所

・川崎市民ミュージアム 3 階

3) 作業体制

①川崎市民ミュージアム内作業 表紙部分のスキャニング作業

（スキャニング前整理作業、一次画像検査作業も兼務）

スキャニング作業員 1 名（文書情報管理士 1 級）

②二次画像検査作業：1 名

③ファイル変換、成果物作製等作業 2 名（内 文書情報管理士 1 級 1 名）

4) 作業数量

①表紙部分：7,168 ファイル

②本文(前付け)部分：1,454 ファイル

(6) その他

1) 資料状態について

資料状態は良好であった。

2) 資料取扱いについて

資料が入っている透明な袋からの出し入れ時に、に資料が引っ掛かる等で資料が傷まないように留意して作業を行った。

3) 資料の管理について

資料点数の管理・・・作業前に資料確認をおこなって資料点数管理を行った。

資料と袋の管理・・・脚本資料は透明な袋にはっている状態であり、スキャニング作業に当たり袋からの資料の出し入れは 1 点 1 点ずつ行った。作業後資料を袋への戻す際に間違い等起こらないように注意して作業を実施した。

4) 資料形態等

・合冊製本されている資料があったため、表紙部分の特定漏れがないように注意して作業を実施した。

・合冊製本の場合、合冊製本の表紙が台本の表紙ではないので注意した。

・資料管理と作業効率上、リストと保管されている資料の並びが今回のように一致していることが重要と考える。

（資料リストと保管されている資料の並びが一致していない作業前の読み合わせ等が困難になり資料管理が煩雑になってしまい、作業進捗にも影響が出てくる恐れがある。）

【3】貴重書の全文電子化

(1) 作業内容

放送脚本資料をスキャニングし、画像データを作製。スキャニング作業は、全て弊社作業場所にて実施した。

(2) 作業工程について

- 1) 作業分の資料と資料リストとの照合を含む、スキャニング作業前整理作業
- 2) スキャニング作業
- 3) 一次画像検査作業（資料と画像の照合によるスキャニング漏れの検査）
- 4) 二次画像検査作業（画質、傾き等の画像検査）
- 5) 画像ファイル変換作業
- 6) 最終検査及び納品メディアへの格納作業

(3) 電子化仕様（上記、国立国会図書館作業と同一）

(4) 使用スキャナー（上記、国立国会図書館作業と同一）

(5) 作業実施時期・場所等

- 1) 全作業期間等
 - ①全作業期間：平成30年12月13日～平成31年3月6日
 - ③作業時間：9時～17時
- 2) 作業場所
株式会社ニチマイ 本社作業場所
- 3) 作業体制
 - ①スキャニング作業前整理作業：1名
 - ②スキャニング作業：1名（文書情報管理士1級）
 - ③一次画像検査作業：1名
 - ④二次画像検査作業：1名
 - ⑤ファイル変換、成果物作製等作業 2名（内 文書情報管理士1級1名）
- 4) 作業数量
 - ①表紙部分のスキャニング作業：119ファイル
 - ②本文部分のスキャニング作業：3,427ファイル

(6) その他

- 1) 資料状態について
非常に劣化が進んでいる資料があった。

2) 資料取扱いについて

①資料の綴じ部分が深い資料（ページの開きが悪い資料）があったため、資料が破損しない範囲で資料を開いてスキャニング作業を行った。

②劣化が進んでおり資料を開くことが困難な場合には資料を留めているステープルを外してスキャニング作業を行った。

3) 資料の管理について

資料点数の管理・・・作業前に資料確認をおこなって資料点数管理を行った。

4) 資料形態等

- ・資料の綴じ部分が深い資料（ページの開きが悪い資料）があった。
- ・資料管理と作業効率上、リストと保管されている資料の並びが今回のように一致していることが重要と考える。

（資料リストと保管されている資料の並びが一致していない作業前の読み合わせ等が困難になり資料管理が煩雑になってしまい、作業進捗にも影響が出てくる恐れがある。）

5) 資料保管場所

お預かりした脚本資料は以下弊社セキュリティ体制のもと弊社耐火保管庫にて保管いたしました。

①耐火保管庫 外部及び内部画像



②資料保管場所他セキュリティについて

弊社本社への入館及び耐火書庫設置場所及び各作業場所へはセコム入退室カードシステムにより関係者以外は入室できない。

また、耐火保管庫設置場所及び各作業場所への入退室について日時単位で個人特定が可能な仕組みとなっている。

3. デジタル化作業に関する著作権について

デジタル化については、著作者の許諾を要することから、劣化保存のためであっても簡単に実施することができない。そこで、寄贈者へ改めてデジタル複製の許諾を行う方法が検討された。また、寄贈時のエントリーシート（現物の所有権移転を確認する書類）にデジタル化についてのご理解を頂き、劣化状況によりデジタル複製される可能性がある旨を書面に明記した。また2018年に著作権法が改正されたことを受け、脚本アーカイブズ活動に関わる改正ポイントについてご寄稿頂いた。

<p style="text-align: center;">脚本・台本寄贈用エントリーシート</p> <p style="text-align: center;">日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム 御中</p> <p>私は、貴コンソーシアム及びその移管先による本脚本等の所有と管理（保存のためのデジタル化を含む）に同意します。</p> <p style="text-align: center;">【寄贈の脚本・台本等の明細】別紙リストに記載</p> <p style="text-align: right;">_____年 月 日</p> <p>住所：〒 _____</p> <p>_____</p> <p>署名： _____ 印</p> <p>電話： _____</p> <p style="text-align: center;">（未成年者の場合、親権者の署名・捺印： _____ 印）</p> <p>◇ また、本脚本等が将来重複、状態が悪化した場合等の扱いについては、管理者に一任いたします。</p> <p>.....</p> <p>※なお、下記のアンケートにご協力いただければ幸いです</p> <p>該当の（ ）内に○印を付け、下線部分にご記入ください（不明な部分は未記入でお願い致します）。</p> <p>【権利に関する情報等】（作品によって回答が異なる場合は、別の用紙を使用してください）</p> <p>私は、本脚本等の（ ）著作権者、（ ）スタッフ・制作関係者 （ ）出演者・その関係者、（ ）その他→ _____です。</p> <p>※以下は著作権者のみ記入してください。</p> <p>本脚本等の著作権者 _____ と私の関係について （ ）本人、（ ）相続人、（ ）その他→ _____ です。</p> <p>（ ）本脚本等の著作権は、下記団体に管理を委託しています。 名称 _____</p> <p>（ ）本脚本等（内部書込みを含む）には、本脚本内に表記以外の著作権者がいます。 その著作権者の氏名等 _____</p> <p>特記事項(あれば) _____</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>【著作権法上認められている各種利用のほか、インターネットその他での公開を許可いただける著作権者はチェックしてください】</p><p><input type="checkbox"/> 私は、デジタル化した本脚本等をインターネットその他で公開することを許可します。</p></div>

【寄稿文】

アーカイブを支える法改正—2018年改正著作権法の活用を期待して

弁護士 福井健策／松澤邦典

2018年の改正著作権法（2019年1月1日施行）では、アーカイブに関わる幾つかの重要な法改正が行われた。そのなかには、各アーカイブ機関による積極的な活用を大いに期待できる改正点も含まれている。そこで、本稿では、2018年に行われた法改正のなかから、アーカイブに関わると考えられる改正点に絞って、その概要を紹介したい。

アーカイブに関わる改正の全体像

- ① いわゆる「所在検索サービス」を可能にする規定の整備（47条の5）
- ② 国会図書館による外国の図書館への絶版等資料の送信（31条3項）
- ③ 作品の展示に伴う美術・写真の著作物の利用（47条）
- ④ 裁定制度の拡充（67条の2）

アーカイブへの活用を期待できる改正点の第一は、いわゆる「所在検索サービス」を可能にした改正著作権法47条の5である。所在検索サービスとは、書籍、TV番組などの社会の多様なコンテンツの所在を検索可能にするとともに、その一部を検索結果と併せて表示するサービスのことである。要するに、「Google ブックス」的なサービスを可能にする法改正である。これはGoogleが提供する書籍検索サービスであり、利用者は膨大な書籍の全文を対象に検索を行なうことができ、検索結果として表示された書籍の内容の一部を見ることができる。書籍の内容の一部が表示されることで、利用者は検索結果が自分の関心に沿うものであるか否かを確認できるのである。

こうした著作物の一部の表示については、著作権者の利益を不当に害しないという条件の下、軽微な利用に限って認められることになった。軽微か否かは、利用される著作物の割合、量、表示の精度等を総合考慮の上で判断される。

出典：文化庁「著作権法の一部を改正する法律 概要説明資料」7頁。

http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/hokaisei/h30_hokaisei/pdf/r1406693_02.pdf

また、本条に基づいて利用が可能となるのは、公衆への提供または提示が行われた著作物（公衆提供提示著作物）に限られる。立法時の議論等を踏まえ、「公衆提供提示著作物」は、現に公衆に提供・提示されている著作物に限定されず、過去に公衆に提供・提示されたことのある著作物も含まれると解される。よって、過去に報道に使用された写真、商業公開された映画、一般向けに出版されたがその後絶版となった書籍・雑誌など、現在は市場に流通していない著作物であっても、「公衆提供提示著作物」に当たると考えられる。改正著作権法47条の5に基づいて、各アーカイブ機関は、アーカイブに収録した著作物の所在情報などのメタデータを利用者に検索させ、その著作物の内容の一部を検索結果とともに表示するサービスを提供できるようになった。この改正では、こうしたサービス提供の準備段階でのデータベースの作成なども可能とされている（同条第2項）。すなわ

ち、各アーカイブ機関は、所在検索サービスのために、社会に遍在する膨大な著作物のデジタル化を行い、データベースの整備を進めることが権利処理なく可能となったことになる。

改正著作権法 47 条の 5 自体は狭義のアーカイブ活動における利用のみを想定した改正ではないが、アーカイブ機関による活用も大いに期待できるところだろう。

このほかにも、アーカイブの利活用促進につながる改正が 3 点ほどなされているので、これらも紹介しておこう。

1 つ目は、国立国会図書館は、絶版等で一般に入手困難な資料を外国の図書館等にもデジタル配信できるようにした改正著作権法 31 条 3 項である。改正前は、デジタル配信できる相手方は国内の図書館・博物館等であったが、外国の図書館等にもデジタル配信できるようになった。

2 つ目は、美術・写真の著作物を展示する際、タブレット端末等の電子機器にも展示著作物を掲載できるようにした改正著作権法 47 条である。改正前は、美術館等が美術・写真の著作物を展示する際、作品の解説・紹介のために展示著作物を掲載できる媒体は「小冊子」だけであった。しかし、改正著作権法 47 条により、小冊子への掲載に限られない利用方法が認められ、展示著作物のサムネイル画像をインターネットで公開することも可能となった。ただし、本条は「展示著作物」を対象としているため、展示が終了したものは対象外と考えられる。

3 つ目は、裁定制度の拡充を図った改正著作権法 67 条 2 項である。裁定制度とは、「権利者が誰だか分からない」、「(権利者が誰か分かったとしても) 権利者がどこにいるのか分からない」、「亡くなった権利者の相続人が誰でどこにいるのか分からない」などの理由で権利者の許諾を得ることができない場合に、権利者の許諾を得る代わりに文化庁長官の裁定を受けることで、著作物を適法に利用できる制度である。

裁定制度を利用するためには、通常の使用料額に相当する補償金を供託しなければならない(著作権法 67 条 1 項)。しかし、過去の経験からは、補償金の供託をして裁定を受けた著作物について、その後に権利者が現れる割合は約 1%ともいわれている。99%の供託金は結果的に預けっぱなしで終わるにもかかわらず、わざわざ「通常の使用料」を算出して文化庁を説得し、事前の供託をしなければ著作物を利用できないというのでは、埋もれた作品の利活用やアーカイブ活動が阻害されかねない。

そこで、改正著作権法 67 条 2 項では、権利者が現れたときに補償金の支払を確実に行うことができる国や地方公共団体等については、補償金の供託を免除されることになった。国や地方公共団体のほかには、①独立行政法人、②国立大学法人及び大学共同利用機関法人、③地方独立行政法人、④日本放送協会が、補償金の供託を要しない法人として定められた(改正著作権法施行令 7 条の 6)。

以上が、2018 年著作権法改正における、アーカイブに関わる改正点の概要である。アーカイブを支える法改正は、コンテンツ大国である日本の文化経済戦略の観点からも重要と評価できる。制度面にはまだまだ改善点もあるが、文化資源の蓄積と活用に向けて、アーカイブ機関による新制度の積極的な活用に大いに期待したい。

以上

第4章 目録の作成及びデータベース公開について

(目録の作成及びデジタル化(目録に関する研究))

1. 目録の作成及び「脚本データベース」の拡充、データの標準化策定

1.1 現在の書誌採取の基礎項目は下記の通り

項目	記入例	Web 公開
管理番号	1 資料ごとにナンバリング。外袋のシールに表示される。 NDL001-0001 (国立国会図書館へ寄贈) など	○
旧管理番号	入力時に一時的に付与。分類後に新しい管理番号を付与。	×
合本	合本製本された脚本にマーク	○
分類	台本または資料、原稿	○
メディア	ラジオ、テレビ、映画、舞台、レコード・CD・カセット、 ビデオ・DVD、web 配信、ゲームなど発表された媒体	○
ジャンル	ドラマ、構成、アニメ、映画、海外ドラマ、海外構成、人 形劇、演劇、海外アニメ、海外映画、CM など	○
枠名	連続テレビ小説、大河ドラマ、金曜劇場、火曜サスペンス劇 場、東芝日曜劇場など、固定された放送時間枠の名称	○
シリーズ名	シリーズ・街、ドラマ・人間模様、6月の花嫁シリーズなど、 内容に共通性のある番組群の名称。	○
タイトル	番組の表題	○
タイトルカナ	番組表題のカナ書き	○
サブタイトル	副題。各回につけられた題名。	○
台本バージョン	初稿、二稿、決定稿、改訂稿など脚本・台本の稿数。	○
劣化	紙の酸化など劣化が激しいものに○	×
状態	表紙の外れ、紙の破れ、ホチキスの外れ、コピー台本、規格 外の大きさであるなど普通ではない状態の場合に記載	×
放送回	台本に記載している放送回	○
放送日	台本に記載された放送日	○
放送局	放送局	○
制作	放送局の他、制作会社など	○
作家名	脚本家、放送作家名	○
原作者	台本に原作、原案の記載があるもの	○
原作名	原作題名	○
出演	H28 年まで冒頭の 3 名記載。H29 年より全員記入	○
作品情報・備考	提供会社名、芸術祭などの受賞歴や、タイトル・サブタイト ルが実際の放送と異なっている等、項目外の作品情報	×

寄贈元/属性	寄贈者／寄贈者が作家、制作者、会社などを記載	×
寄贈日	受け入れ日	×
権利処理	寄贈確認の書類送付の有無	×
個人情報	個人情報の有無、被覆作業の有無	×

1.2 平成 29 年度より

【新規追加した入力項目】

項目	記入例	公開予定
演出/監督	演出、ディレクター、監督等	○
プロデューサー	プロデューサー、制作、企画	○
音楽	劇伴の作曲者、音楽監督等	○
美術・デザイン	美術・デザイン担当者。美術関連スタッフ（大道具・小道具等）はスタッフ備考に記載	○
考証・指導	時代考証、殺陣指導等	○
スタッフ備考	上記以外のスタッフをすべて記載	○
主題歌	台本に記載されたもののみ	○
尺（分）	放送された時間数（30 分、2 時間等）	○
放送時間	放送時間帯の表示（8:15～8:30 等）	○
あらすじ	台本に記載のあるものは転記。 その他、ライターに依頼し 600 字～1000 字程度作成	○

1.3 英語版サイト

昨年度より、海外からの閲覧を目指し、映像産業振興機構（VIPO）の管理する統合検索サイト「JACCサーチ」との連携を開始した。連携にあたり英語版サイトの作成を行い、2019年2月に英語版サイトを公開した。

Japan Content Catalog
JACC[®]


You can find the contact information of the Japanese content right holder you were searching for, such as "Anime" "Character" "Game" "Movie" "Music" "TV" and more!

"JACC[®] Search"

Visual Industry Promotion Organization
特定非営利活動法人 映像産業振興機構


© 2019 KADOKAWA ASCII Research Laboratories, Inc. & VIPO All rights reserved.
JACC[®] is a trademark of ITSC CO., Ltd. registered in Japan Patent Office.

Search target of JACC[®]


English - EN


[doraemon] Results 1 - 50 items display / 92 items

Anime

 36th DORAEMON THE MOVIE: NOBITA AND BIRTH OF JAPAN 2016


Broadcast date March 5, 2016

Character

 DORAEMON

©Fujiko-Pro, Shogakukan, TV-Asahi, Shin-ei and ADK


Script

 DORAEMON

Author : TSUII Masaki
Broadcast station : TV Asahi

On Air date : [1981/3/17]

Script

 DORAEMON (after recording script)

Author : FUJIMOTO Nobuyuki
Broadcast station : TV Asahi


On Air date : (?)

JACC サーチ英語版での DORAEMON (ドラえもん) の検索結果

書誌の翻訳については、タイトルの意味を翻訳することなく、すべて日本語タイトルのローマ字表記とした。放送局標記やバージョン（準備稿、決定稿等）の英語表記に困難を極めた。その他、人名については氏名の分ち書きを実施。読み仮名については、著作権管理団体所属の名簿による確認の他、Wikipedia による自動読み取りを行い、リサーチおよび人力での確認を行った。人名のローマ字化にあたり、入力時の転記ミスも発見される等、非常に有益な作業となった。さらにあらすじの翻訳も試行し、来年度掲載を予定している。

GAKKOUHEIKOU !

Writer	YUKAWA Kazuhiko
Broadcaster	Fuji Television Network, inc
On Air date	1991/6/24
Broadcasting times	12
Management	K02-06139-00
Reading	
Classification	Scripts
Media	TV
Genre	Drama
Transfer destination	Kawasaki City Museum



学校へ行こう！英語版表示

1.4 ジャパンサーチとの連携

上記 VIPO がアグリゲーターとなり、JACC サーチを通じジャパンサーチへの「脚本データベース」が連携データベースに掲載されている。



連携データベース
ジャパンサーチと連携しているデータベースの一覧です。

<p>ARC浮世絵ポータルデータベース 立命館大学アート・リサーチセンター</p> <p>WEB上に公開されている浮世絵を総合的に検索できます。</p>	<p>二十一代集 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構</p> <p>原本テキストデータベース（国文学研究資料館所蔵の正保版本を底本とし、詞書・作者・和歌・左注・メロ等からの検索が可能）</p>	<p>在外日本美術 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構</p> <p>ロシアのプーシキン、エルミタージュ、ハンガリーのフェレンツ・ホップ美術館が所蔵する日本美術品（絵画・彫刻・漆器・漆器・彫刻・金工等）の画像・情報検索が可能</p>	<p>文化遺産オンライン 文化庁・国立情報学研究所</p> <p>国や地方の有形・無形の文化遺産に関する情報を公開することなどを目的とした文化遺産のポータルサイト。</p>
<p>日文研オープンアクセス 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構</p> <p>国際日本文化研究センターの研究成果を蓄積し、公開しています。</p>	<p>JACCアーティスト検索 特定非営利活動法人 映像産業振興機構</p> <p>2,000組以上の日本のアーティストのプロフィール等を検索できます。※SYNC NETWORK JAPANが運営している『SYNC MUSIC JAPAN DATABASE』の情報も検索可能</p>	<p>JACC脚本検索 特定非営利活動法人 映像産業振興機構</p> <p>日本のテレビ・ラジオ・映画等の脚本を検索できます。※一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムが運営している『脚本データベース』の情報も検索可能</p>	<p>米国会図書館本源氏物語翻字本文 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構</p> <p>[データベースの説明（日本語）は必須項目です]</p>

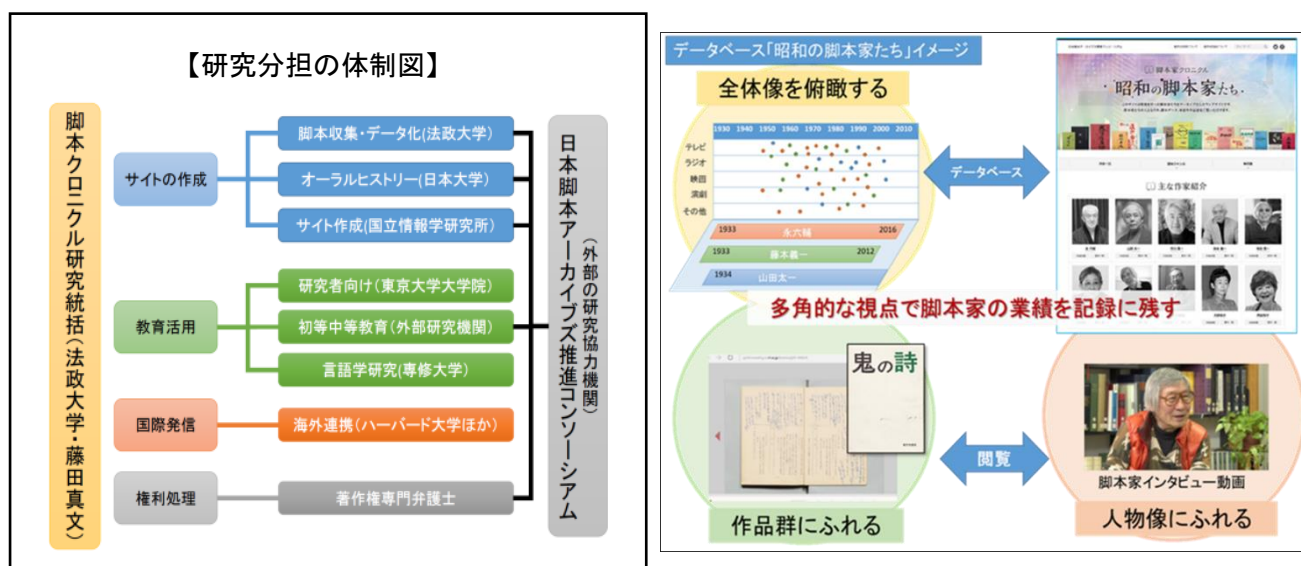
第5章 大学機関との連携研究、全大学図書館 アンケート

1. 大学連携研究

1.1 共同研究の概要

連携大学機関として、東京大学大学院情報学環、早稲田大学、日本大学芸術学部、法政大学、専修大学、国立情報学研究所、国立国語研究所の研究者たちと共に研究会を開催し「脚本アーカイブズ」の利用方法の検討を行った。また海外連携の方法、社会学や言語学、教育などの他分野に渡る活用方法について、分担研究を行っている。

昨年度より法政大学多摩キャンパス内に研究場所を設置し、脚本の書誌入力・管理および現物寄贈準備を行っている。



1.2. データベース「脚本クロニクル」（仮題）作成準備

公開中の脚本データベースは、寄贈された資料を記録する検索システムとしては機能しているが、作品や人物、所蔵先などテーブルをもつデータベースとしての機能はない。入力にはエクセルに記載する形で行われ、統合して流し込む方法を採用している。そのため、記入に際してブレが生じてしまう。

今年度は新たに大学連携研究により、データベース機能を開発し、管理画面と公開画面を作成した。今後、データベース「作品」「人物」「脚本資料」に分け、資料を俯瞰する年表や証言インタビュー映像、デジタル化した作品閲覧などをリンクさせ活用できるデータベースの試作を始めた。（右上図：連携イメージ）

このデータベースにより、寄贈を受けていない作品についても、作家の代表作として表示することができ、今後の収集計画にも役立てることができる。

【作成中の脚本データベース管理画面】

番組情報データベース

脚本家情報 作品情報 番組情報 関連資料 各種マスター ユーザー テストユーザ

脚本家 (44 / 44) 作品 (758 / 758) 番組 (66164 / 66164) 資料 (78106 / 78106)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	不明	年計
1934	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	-	-	-	6
1936	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	3
1937	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	3
1939	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
1940	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	2
1941	1	-	1	1	-	-	-	-	1	-	-	1	-	5
1944	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
1945	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
1946	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2
1947	3	3	-	2	1	3	2	1	-	1	-	1	4	21
1948	1	1	3	1	1	2	-	4	2	-	1	5	3	24
1949	1	4	4	7	3	1	2	1	-	3	5	4	13	48
1950	5	5	3	6	8	6	4	3	5	5	6	6	8	70
1951	5	5	9	2	6	7	2	8	8	7	6	12	8	85
1952	26	22	31	18	20	13	17	27	13	15	21	15	31	269
1953	21	26	21	18	28	34	18	10	9	33	32	26	22	298
1954	24	19	17	22	27	21	28	30	23	25	42	57	35	370

脚本家情報 (よみ索引)

あ(1) い(6) う(1) え お(7)
 か(2) き く(1) け こ
 さ(2) し(2) す(1) せ そ
 た(4) ち つ て と(1)
 な(2) に ぬ ね の(1)
 は(3) ひ ふ(2) へ ほ
 ま(1) み(3) む(1) め も(1)
 や(2) ゆ よ
 ら り る れ ろ
 わ

関連資料 (資料分類別)

台本 76233
 資料 1372
 原稿 501

関連資料 (所蔵館別)

NDL 27562

作品情報一覧

キーワード 検索 クリア 詳細検索

全 758 件 1 件 ~ 20 件目を表示

<< < 1 2 3 4 5 > >>

作品タイトル	期間	作家	ステータス
「詩韻ですよ 昭和元年」(74年、TBS)		向田邦子	公開
「寺内貫太郎一家II」(74年・75年、TBS)		向田邦子	公開
「冬の運動会」(77年、TBS)		向田邦子	公開
「最後の白面猿」(77年、NHK)		向田邦子	公開
「せいご市太郎 忍術借夫婦巻」(77年、TBS)		向田邦子	公開
「カンガルーの反乱」(78年、テレビ朝日)		向田邦子	公開
「家族サーカス」(79年、フジテレビ)		向田邦子	公開
「阿修羅のごとくII」(79年・80年、NHK)		向田邦子	公開
「源氏物語」(80年、TBS)		向田邦子	公開
ドラマ人間模様「あ・うん」 「続あ・うん」(80年・81年、NHK)		向田邦子	公開
「蛇姫のごとく」(81年、NHK)		向田邦子	公開
「隣の女 現代西鶴物語」(81年、TBS)		向田邦子	公開
「森繁の垂裕録本」(62-69年、TBSフジオー文化放送)		向田邦子	公開
「ガラスの厚層」(61年、フジテレビ)		早坂聰	公開


■ 作品情報 あらすじを記載

[トップページ](#) / [作品情報一覧](#) / 「時間ですよ 昭和元年」(74年、TBS)

 「時間ですよ 昭和元年」(74年、TBS) ★

作品情報 [[編集](#)] [[削除](#)] ステータス: 公開 (公開日時: 2018-12-20 18:05:29) [[変更](#)]

作品情報ID	5
作品名	「時間ですよ 昭和元年」(74年、TBS)
期間	-
作家	向田邦子
概要	東京で銭湯を営むある家族を描いた人気ドラマシリーズのシリーズ最終作。今シリーズでは時代設定が昭和の初めに改められた。また、人気グループのドリフターズを脱退した荒井注が、森光子の夫役として今作で俳優デビュー。さらに、劇中で展開する悲恋のBGMとして使われた、さくらと一郎の「昭和枯れすき」が爆発的ヒットを記録するなど、様々な話題を集めたシリーズとなった。★昭和の初め。亀山てる(森光子)は、夫の平八郎(荒井注)とともに銭湯「亀の湯」を経営していた。亀山家の家族は、てるの母ツネ(悠木千帆)、長男の忠治(千昌夫)、長女の実代(津田美代子)、忠治の嫁の信子(池波志乃)の六人。そして、お手伝いのエツ子(谷口世津)と従業員の浅太郎(左とん平)も家族同然に暮らしていた。さらに銭湯の常連や近隣の人々(由利徹、かまやつひろし、坊屋三郎、財津一朗)なども加わって、にぎやかで人情にあふれた人々の営みが続いていた。一方、亀の湯の近くでは、肺病を抱えたヤクザ者(細川俊之)と足抜け女(安田道代)の悲恋が繰り返されていた。

最終更新ユーザ:  青木隆平

最終更新日時: 2019-01-07 10:52:31 登録日時: 2018-12-20 18:05:29

 向田邦子 ★

脚本家情報 [[編集](#)] [[削除](#)] ステータス: 公開 (公開日時: 2018-12-23 16:13:16) [[変更](#)]

脚本家情報ID	1
脚本家名	向田邦子
脚本家名 (かな)	むこうだくにこ
プロフィール	(1929-1981)東京・世田谷生まれ。東京女子専門学校・東京女子大学国文学科。少女時代は父の転居に伴い、日本各地を転々としながら育つ。学校卒業後、私立文芸社に社員秘書として入社。その後、経世社に転勤。映画雑誌「映画ストーリー」で編集者として働く。小森和子ら映画界などの人脈を広げた。脚本は市川崑に誘われ、1960年に執筆。脚本家、エッセイスト、小説家として活躍。「冬の運動會」「あ・うん」など、数人脚筆筆を築いた脚本のドラマを執筆した。テレビ、ラジオ自身の作家的活動の発展のため、転居もろし、書田隆人、津田幸次らと作家集団の仲間になる。「昭和の初め」「あ・うん」を1979年度のザ・ベストテン賞受賞。1980年に短編小説の傑作「花の名前」「かわらせ」で日本賞受賞。1981年、台湾を取材旅行中に航空機墜落事故で死去。長後、その記憶を遺して向田邦子賞が創設された。

最終更新ユーザ:  青木隆平

最終更新日時: 2019-01-07 10:47:53 登録日時: 2018-12-23 16:13:16



公開中 非公開にする 画像の削除

作品情報 [[関連付け](#)]

全 17 件 1 件 ~ 17 件目を表示

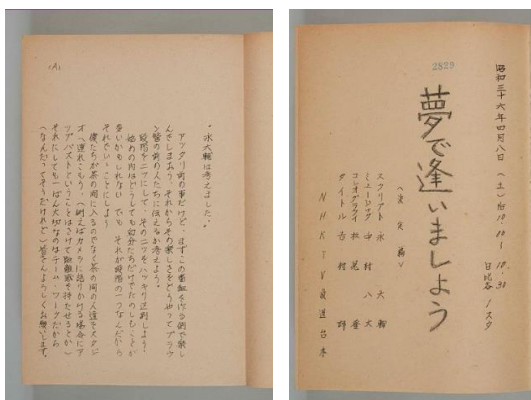
期間	作品名	作家	経緯	ステータス	関連付け
	「時間ですよ 昭和元年」(74年、TBS)	向田邦子	東京で銭湯を営むある家族を描いた人気ドラマシリーズのシリーズ最終作。今シリーズでは時代設定が昭和の初めに改められた。また、人気グループのドリフターズを脱退した荒井注が、森光子の夫役として今作で俳優デビュー。	公開	一括
	「寺内貫太郎一家・II」(74年・75年、TBS)	向田邦子	東京・下町で右衛門を営む一家。周囲の人々との人情あふれる日々をコミカルに描いたドラマ。主人公のモデルは向田邦子の父親だつたとされる。連続放映の嵐とどない作曲家の小林正吉が主役を務めて注目された。	公開	一括
	「冬の運動會」(77年、TBS)	向田邦子	TBS系列で1978年から7年連続した「木下真由子・人間の歌」シリーズの最終作。「運動會」とは好評を博す青春ラブストーリー。全1話にわたって放送された。2005年には、田原久美子の脚本、岡田謙一、長谷川。	公開	一括
	「藤原の白百合」(77年、NHK)	向田邦子	松本清張の小説「朝顔」をドラマ化した。「土曜ドラマ」枠にて放送された。会社一筋で生きてきた男の悲劇「白百合」を題材にドラマ。演出は和田誠。ドラマに出演内容の松本清張自身も出演している。また、原作の「藤」。	公開	一括
	「おしと郎大郎 志願偉大物語」(77年、TBS)	向田邦子	賢い学生おと郎と金持の持郎一家との対比をユーモラスに描いた下町人情ドラマ。全2話。映画「李福の黄金いんかん」で注目された志願偉大が出演したテレビドラマでもある。★和田邦子(小林正吉)。	公開	一括
	「カンパールの恋」(78年、テレビ朝日)	向田邦子	過保護で3歳の結婚相手がある恋の出会い。やがて高に落ちて、様々な出来事を経て、結末まで結実するまでを描いたドラマ。全1話。出演は杉浦春夫、赤木春雄、いしだあゆみ、佐野元夫、若原三郎ほか。★池田忠雄。	公開	一括
	「家族サーカス」(79年、フジテレビ)	向田邦子	映画に倣って一貫から首を絞めて成功を収めた実業家と、親教育者の子供たちの愛と葛藤のドラマ。毎朝様々なトラブルを取り上げてドラマが展開された。タイトルは「毎日がサーカスの騒ぎのよう」に、スリルに満ちた家。	公開	一括
	「阿修羅のごとく・II」(79年・80年、NHK)	向田邦子	一話、平凡に見える実業に思ふ危険と、それに翻弄される家族を描いたドラマ。女心の突進にある阿修羅のようにならざるを得ない。II)では父の浮気も、II)では結婚の裏面を描いて描く。	公開	一括
	「源氏物語」(80年、TBS)	向田邦子	紫式部によるあまのこにも有名な古典文学をテレビドラマ化。主人公・光源氏には沢田研二が演じ、藤と恋物語を繰り返す八人の女性たちを、八千草薫、十朱幸代、いしだあゆみ、船山英子、藤岡洋子、船山英子、船山英子、船山英子。	公開	一括
	ドラマ人間劇場「あ・うん」(続あ・うん)(80年・81年、NHK)	向田邦子	1981年8月22日、飛行機事故で死去した向田邦子最後の長編ドラマ。朝顔の原案を舞台に、一話の形式のようにならざるを得ない。二重奏八人を中心とした人間模様。十九話の夕顔の物語を描く。「あ・うん」。	公開	一括
	「船場のごとき」(81年、NHK)	向田邦子	へばりつりのように自由に書かされていた二人の中年男性が、ふとしたことから理解し合うようにならざるを得ない。II)は父の浮気も、II)では結婚の裏面を描いて描く。阿修羅のようにならざるを得ない。II)は父の浮気も、II)では結婚の裏面を描いて描く。	公開	一括

[画像の追加]
登録する画像をここにドラッグ&ドロップしてください

1.3 「永六輔バーチャル記念館」公開

平成 29 年度に完成したデジタル脚本アーカイブズ第三弾「永六輔バーチャル記念」も、国立情報学研究所の高野明彦研究室および NPO 連想検索のメンバーによる研究成果といえる。永六輔氏のインタビューを残すことはかなわなかったが、永氏と親しかった関係者からの証言により、人物像を描くことに成功した。脚本については、テレビ草創期の名番組「夢で逢いましょう」を遺族から脚本を借り受けデジタル化して公開している。244 回放送のうち 203 回分が公開されている。特に遺族の手元になかった第一回は NHK 放送博物館内で撮影を行った貴重な資料となっている。また公開後に、最終回の脚本も当時のスタッフの方の手元にあり、追加公開している。

<h1>永六輔 バーチャル 記念館</h1> <p>Rokusuke Ei Virtual Memorial Archive</p>	<h2>作品を見る</h2>	<h2>永六輔の足跡</h2>	<h2>永六輔を語る</h2>	<h2>サポート</h2>
	脚本を読む	略歴	永六輔さんと私	お知らせ一覧
	声を聴く	写真館	永六輔論	お問い合わせ
	eReading の使い方	仕事年譜	永さんからの手紙	サイトマップ



第一回放送の1ページ目にはスタッフに宛てた永氏の思いが綴られている。



加藤登紀子氏のインタビュー

1.4 オーラルヒストリー録取

大学連携研究のもう一つの大きな成果は、オーラルヒストリーの充実といえる。

日本大学芸術学部等に御協力頂き、学生の教育の一環として撮影・編集作業をお願いした。昨年度から引き続き、アニメ分野のインタビューも含め、下記のメンバーのインタビューを行った。

- ・奥山侑伸氏（テレビ草創期から活躍する放送作家）
- ・辻真先氏（アニメ脚本家。「鉄腕アトム」にも参加）
- ・鈴木良武氏（アニメ脚本家。虫プロの歴史を語る人物）
- ・羽原大介氏（映画「パッチギ」「フラガール」をはじめ、「マッサン」を執筆）
- ・伴一彦氏（「パパはニュースキャスター」「喰いタン」など数々のヒット作を残す）
- ・柏原寛司氏（「あぶない刑事」シリーズなど刑事ものの名手。アニメも多く手掛ける）
- ・富田祐弘氏（「セーラームーン」シリーズをはじめヒットアニメを世に送り出した）
- ・池端俊策氏（当コンソーシアム代表。来年の大河「麒麟が行く」を執筆中）



柏原寛司氏



富田祐弘氏



辻真先氏

1.5 教育普及の実施

脚本を作る楽しみを知ってもらうため、小学生に向けた映像制作ワークショップ「ワン・ミニット・ムービー」を行っている。平成26年に教材を開発し、年3～4回合計20回以上開催し、400名以上の小学生が参加。会場として、川崎市市民ミュージアムをはじめ、NHK放送博物館、品川学園、世田谷文学館、福岡市科学館などで開催している。



作品発表の様子

【寄稿文】

言語学から見た脚本アーカイブズの可能性

丸山岳彦（専修大学・国立国語研究所）

「言語学 (linguistics)」とは、我々ヒトが操る「言語」について、科学的な立場から研究する学問である。本稿では、「脚本アーカイブズ」が持つ学問的な利用の可能性について、言語学の観点から述べてみたい。

1. 言語学の射程とアーカイブズの役割

言語は、音、文字、単語、文法、意味など、さまざまなレベルの要素から構成される。これらは、言語の「仕組み」を研究する分野として、「音声学」「音韻論」「文字論」「語彙論」「文法論」「意味論」などの研究領域に分かれる。さらに、言語の歴史的な変化に関する研究や、社会の中での使われ方に関する研究、言語の教育に関する研究、言語の情報処理に関する研究など、言語の「使われ方」を研究する分野もある。「歴史言語学」「社会言語学」「教育言語学」「コーパス言語学・自然言語処理」などがこれらに該当する。

どのような言語学の領域にせよ、言語を分析するためには、他の自然科学と同様、「分析資料」が欠かせない。1000年前の日本語を分析するためには平安時代の文学作品を中心とした分析資料が必要となるし、現代の「ら抜き言葉」の普及過程を分析するためには現代から過去100年程度にわたる書き言葉・話し言葉の分析資料が必要となる。いくつかの資料を断片的に集めただけでは、分析資料とはなり得ない。分析資料は、できるだけ大量に、しかも体系立てて収集されたものであることが望ましい。

ここで、「言葉のアーカイブズ」という考え方が出てくる。古今東西、実際に使われた言葉の用例を大量に収集し、体系的に保存しておくことで、多様な観点から言語を分析するための資料として利用することができるわけである。言語学の中では、大量に収集された言語資料に研究用情報を付与したものを特に「コーパス (corpus)」と呼ぶが、その根本的な考え方は、「アーカイブズ」のそれと等しい。アーカイブされた大量の言語資料から、どのように情報を引き出して分析するか。近年、データ科学としての言語研究（コーパス言語学）が、その方法論や実践例をめぐって、活況を呈している。

その点において、NKACが進めている「脚本アーカイブズ」の事業は、非常に大きな意義を持つ。「脚本」という言語作品を収集し、体系的に整理・保存することによって、そこで使われている「言葉」を分析するための資料となり得るからである。

2. 「脚本」というメディアが持つ特徴

では、テレビ・ラジオドラマの「脚本」というメディアを研究資料としたとき、そこから何が分析できるのであろうか。

脚本は、主として「台詞」と「ト書き」から構成される書き言葉の一種である。ただし、映像化・舞台化されることを前提して書かれている点で、小説の会話部分とは異なる。すなわち、脚本は、「話されることを前提として書かれた言葉 (written to be spoken)」と呼ぶこ

とができる。特に現代を題材としたドラマの場合、そこで話される台詞は、その時代のトレンド（流行、世相、思想など）を反映したものになる。1990年前後に制作された「トレンドドラマ」を見ると、言葉づかいのみならず、髪型やファッションなど、当時のトレンドを知る手掛かりにあふれていることが分かる。

脚本を、「その時代のトレンドを反映したメディア」という見方で捉えれば、脚本は、「時代を映す鏡」と呼べるかもしれない。脚本を通して、その時代の最先端だった社会風俗やそのありさまを見て取ることができることになる。

言語学の観点から言えば、脚本とは、その当時の言葉づかいを知るための手掛かりを与えてくれる格好の分析資料である。「現代の言葉づかい」と一口で言っても、その移り変わりは実は激しく、気づかないうちに言葉は古くなっていく。そのような言葉の変遷を捉えようとする際、脚本が時代ごと・作家ごとにアーカイブされていることによる恩恵は、限りなく大きい。

3. 「脚本」の言語学的な利用のために

先述の「コーパス言語学」の領域では、通常、次のような研究手順がとられる。

(1) 分析対象の選定 → (2) 分析対象の電子テキスト化 → (3) 形態素解析

(1)の段階で、分析対象となる言葉の種類が選定される。それらは(2)の段階で電子テキスト化されてコンピュータに格納され、さらに(3)の段階で「紅茶(名詞)を(助詞)飲ん(動詞)だ(助動詞)」のように単語に区切られたデータベースが構築される。この状態から、メディア・出版年・話者などの属性に応じて、特徴的な言語表現・言語変化の実態が分析されることになる。

今、1960年代から2010年代までの脚本が大量に集められ、かつそれらがすべて電子テキスト化されたと仮定しよう。これらは執筆者・執筆年・作品ごとに分けられているものとする。形態素解析は99%以上の精度で自動的に実施できるので、ここに「脚本コーパス」ができることになる。

この「脚本コーパス」を使えば、例えば、ある二人の脚本家が持つ文体的な違いを明らかにすることができるだろう。また、ある作家が書いた一連の脚本群から、その作家の作風が時代によってどう変遷したかを探ることもできるだろう。さらに、1960年代から現代にかけて、流行した語句や表現、言い回しなどを時代ごとに分析することもできるだろう。

このような研究は、文学の研究で行われてきた「文体論(stylistics)」に近づいていく。コーパスを用いた文体論の研究、すなわち「コーパス文体論(corpus stylistics)」の研究として位置づけられることになるだろう。

問題は、脚本を電子テキスト化する作業と、著作権の問題である。特に古い時代の脚本は手書きのものも多く、OCR(光学的文字認識)で自動的に文字化することは難しい。手書きの脚本をどう電子テキスト化するか、これは大きな課題である。また、当然のことながら、脚本を電子テキスト化して公開するには、著作権処理が問題となる。脚本の学術的利用に向けて、公正な利用が可能になる状態が実現することを望みたい。

言語学からの見地論文

脚本に現れる「終助詞」について

専修大学大学院 松下 晶子

今回の分析で着目したのは、テレビドラマ脚本の中で用いられる終助詞についてである。分析対象データとして、1970年代から2000年代にかけて故市川森一氏の執筆した脚本(合計40作品・631,284語)を利用した。

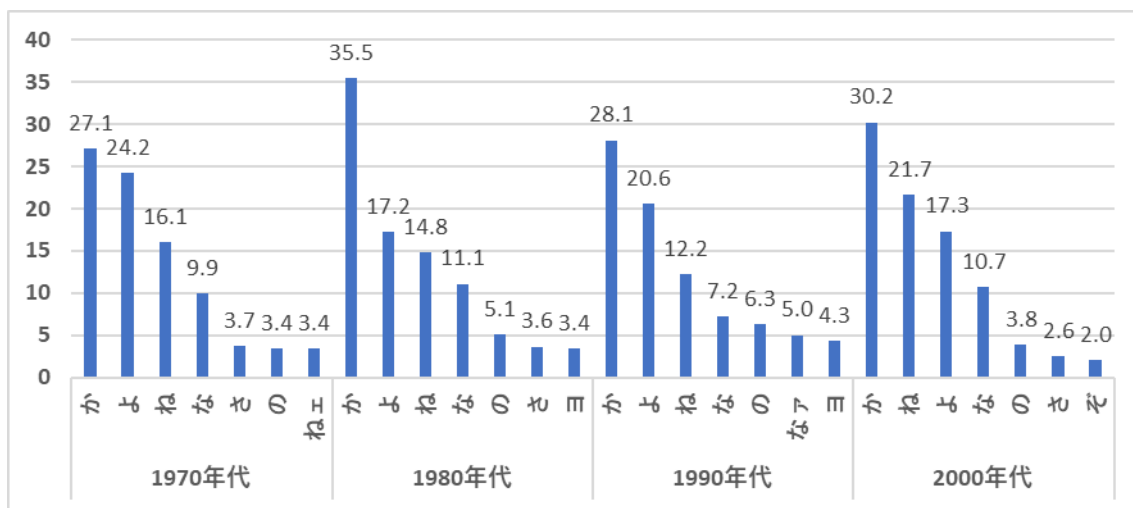


図1 各年代の男性登場人物の使用する終助詞上位7つ(100万語あたり)

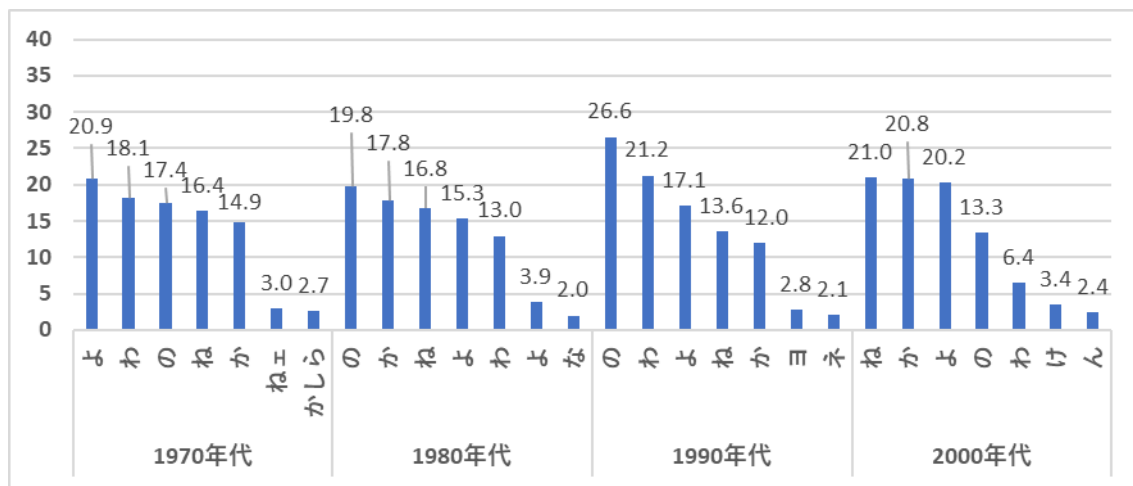


図2 各年代の女性登場人物の使用する終助詞上位7つ(100万語あたり)

図1と図2は、各年代の男性・女性登場人物が使用する終助詞7つについて、100万語あたりの頻度を表したグラフである。

女性登場人物で目立つのは、「わ」や「かしら」といった終助詞で、典型的な「女性らしさ」を表すために用いられていると考えられる。これは、ある特定の人物像を想起させる「役割語」に近いと考えられる。男性登場人物の終助詞でも、「さ」や「ぞ」といった終助詞が上位に入っており、「男性らしさ」を想起させる役割語としての働きがあると考

えられる。さらに、終助詞「さ」に関しては、男性らしさというだけではなく、気取り屋な性格をもつ発話者である印象も与える。

図1及び2の中で、印象的だったカタカナ終助詞についても取り上げる。

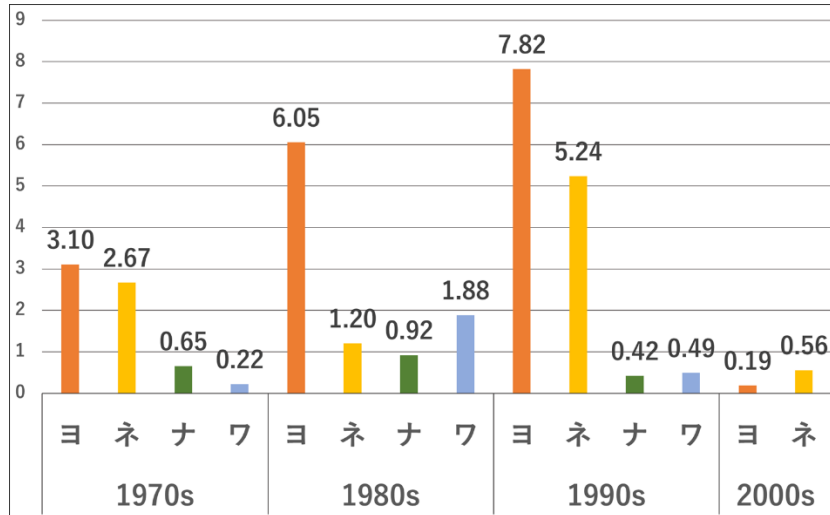


図3 各年代においてカタカナで表記された終助詞(100万語あたり)

図3は、出現率が高い終助詞「よ」「ね」「な」「わ」について、カタカナで表記されている頻度を100万語あたりで示したものである。

「ヨ」が1990年代にかけて徐々に上昇したものの、2000年代の作品では頻度が顕著に落ち込み、2000年代では使用されてはいるものの、その頻度は非常に少ない。

このようなカタカナ終助詞が用いられている「場面」について考える。ひらがなではなくカタカナで表記されていることに、どのような意図が含まれていると考えられるのか分析を行う。

(1) 安武が受話器をとる。

安武「ハイ、刑事課！……（ニタリと）ハイ、少々お待ち下さい。デカ長！未来の奥さまからですヨ」

日下部たちにニヤニヤされて、高階戻ってくる。

(1970年代『夢に吹く風』)

例文1は、安武という男性が、上司である高階の婚約者からの電話を受け取り、それを高階に引き継いでいる場面である。上司の婚約者から職場に電話がかかってきた、という部下にとって上司をからかうことができる絶好の機会に恵まれた場面であることが、カタカナ表記されていることで、より強調されている印象を受ける。例文1の終助詞「ヨ」の部分をはらがなで表記してみると、受け取る印象は変わり、からかいの印象は薄くなるように思われる。

脚本は「話されることを前提として書かれた言葉」という特徴的な文のスタイルである。それ故に、上記のような、男女それぞれの「らしさ」が現れる終助詞や、カタカナで表記される終助詞といった特徴が表れたと考えられる。このような特徴が、意図的なのか非意図的なのか、意図的だった場合、それは脚本家から役者へのメッセージなのか、演じる役者への配慮なのか、考えられる可能性は多くある。今後、既存のコーパスとの比較や、他の脚本家によって書かれた作品の分析との比較による多角的な分析が必要である。

2. 全大学図書館 アンケート

一般社団法人日本図書館協会および国公私立大学図書館協力委員会の協力により、大学図書館（国公立、私立大学図書館）1,424 か所、短大・高校専門学校の図書館 245 か所合計、1,667 か所へのアンケート調査を実施した。回答は以下の通り。

	回答数	所蔵有	所蔵なし	不明	所蔵率
国立大学図書館	34	2	30	2	5.9%
公立大学図書館	24	0	24	0	0%
私立大学図書館	238	30	204	4	12.6%
短期大学図書館	79	2	77	0	0%
高等専門学校図書館	34	2	29	3	5.9%

全体の図書館数の割合では、大学図書館（1,424 箇所）での脚本所蔵率は 2.2%。短期大学・高等専門学校図書館では 1.6%とごく少ないことが改めて分かった。回答しやすいように HP からの回答フォーム（右図）も設定したが、回答率は約 25%と少なかった。回答率の低さは所蔵する館が少ないことに起因すると思われる。

冊数も 1~2 点所蔵という図書館が多く、卒業生や関係者からの寄贈によるものが多くみられた。そのほか、美術大学、音楽大学、服飾大学などの芸術系の大学での所蔵が新たにわかり、教育活用や連携につながる調査結果であった。

平成 24 年に実施の全国公共図書館のアンケートでは全 3264 館のうち 109 館（約 3%）が所蔵という結果を得た。大学図書館で脚本所蔵が公共図書館より少ないことは意外であった。各研究者が個人的に保有する現状（時代考証や放送批評など）が推測される。

過去の調査では、海外の大学図書館（米国・UCLA 等）に脚本は所蔵され、映像と共に利用されるなどの例が見られた。今後、国会図書館のデジタルコレクションの図書館送信を通じ、大学図書館でも活用されることを願いたい。

脚本所蔵のアンケート 回答フォーム

機関種別 *

機関名 *

ご担当者 *

ご住所 *

メールアドレス *

脚本（脚本集など出版された図書や脚本掲載の雑誌を除く）のご所蔵についてのご質問です。

脚本・シナリオ形式の資料 所蔵している
の所蔵について * 図書館以外の場所（研究室・各教授など）
 不明
 所蔵なし

図書館以外の場所について
研究室など教えてください

脚本の種類について * 所蔵なし テレビドラマ
 テレビ構成（情報・ドキュメンタリーなど） ラジオドラマ
 ラジオ構成（情報・ドキュメンタリーなど） 映画シナリオ
 演劇などの戯曲 不明

所蔵脚本の冊数を教えてください。

所蔵脚本の主な著作者名を
教えてください。

所蔵脚本の制作年代を教えてください * 所蔵なし 1980年以前（～昭和55年）
 1981年～2000年（昭和56～平成12年） 2001年以降（平成13年～）
 不明

所蔵脚本の入手方法 * 所蔵なし 購入
 寄贈（寄贈者がわかればメッセージ欄にご記入ください） 不明

上記の脚本の資料目録について * 所蔵なし 作成済み 作成中 作成予定あり 作成予定なし
 データベースに登録済み

資料目録のご提供について 所蔵なし 提供できる 提供できない

所蔵脚本の今後の管理予定 * 所蔵なし 現状のまま保管 他機関への寄贈・移管を検討
 廃棄を検討 その他

第6章 所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究

1. 所蔵関係について

1.1 目録の統合の試行

脚本アーカイブ活動において連携している所蔵館は、国立国会図書館、川崎市市民ミュージアム、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、国立映画アーカイブ、NHK 放送博物館、放送ライブラリー、NHK アーカイブス。今後は大学連携研究にて構築中のデータベースを利用し、次年度以降、全国の脚本所蔵館の資料の統合検索サイトの実証実験を行う予定。

1.2 ヒヤリングの実施

■明治大学現代マンガ図書館ヒヤリング実施（内記コレクション）

- ・所在地：〒162-0041 東京都新宿区鶴巻町 565-2F 電話 03-3203-6523
- ・休館日：火、金、年末年始
- ・開館時間：午後 12：00～19：00
- ・ご担当：スタッフ・長橋正樹氏、内記ゆうこ氏
- ・所蔵館設立の経緯

マンガ家を目指していた内記稔夫氏（1937年～2012年）が1955年、新宿山吹町に貸本屋「山吹文庫」を開業しマンガの収集を開始。1978年、日本初のマンガ専門図書館「現代マンガ図書館〈内記コレクション〉」を設立。1997年、図書館の設立と運営に対して第1回「手塚治虫文化賞」特別賞を受賞。2009年、コレクションを明治大学に寄贈し、現在に至る。

- ・所蔵資料の内訳（2006年12月時点）

	所蔵数
マンガ単行本	約 90,000 冊
貸本マンガ	約 10,300 冊（B6版約 1,800 冊、A5版約 8,500 冊）
青年誌	約 26,500 冊
少年誌	約 15,500 冊
少女誌	約 14,500 冊
アニメ脚本	175 冊
その他脚本	22 冊
その他（新刊等）	随時購入

- ・所蔵場所：閉架書庫内
- ・保管状況：ビルの2階が受けと閲覧室になっており、2階も含め、ビルの1階から4階の本来居住スペースであった部屋も現在は全て書庫として使用されている。所蔵されている資料に所在検索のための資料番号は付されていない。雑誌、単行本、貸本等種別別に書庫の場所と棚が決められていて、マンガ家氏名50音順に排架されている。館独自の所蔵ルールであるため、ベテランのスタッフでないと貸し出しのための出庫作業は困難。日々増え続けるマンガ、雑誌を収納するため本棚に入りきらない冊子はタイトル毎に紐で束ねて床置きされている。

- ・ 閲覧方法：一般会員は年会費 6000 円、法人の賛助会員は一口 10,000 円を現金書留で送付すると友の会会員になれる。後日送られてきた会員証を受付で提示。友の会会員でない場合は、入館料 300 円（中学生以下 200 円）を払えば利用可能。（一日のみ出入自由）会員、非会員共に 1 回 1 冊につき 100 円の閲覧料がかかる。但し、昭和 45 年以前の出版物は友の会会員でなければ閲覧不可。明治大学の学生、教職員は一般会委員と同様に利用できる。

通常、マンガ閲覧の場合は、受付の閲覧申込書に、友の会会員番号、名前、著者名、書名・誌名、巻数・号数・発行年月を記入して提出。新しいマンガは PC でデータ化されているが古いマンガや雑誌はファイルに手書きで書誌情報が記入されている。自分の閲覧したい本があるかどうか分からない場合は、雑誌、貸本、単行本マンガの種類別に分けられたファイルで探す。貸本や単行本マンガはマンガ家別の頁毎に作品タイトル、出版社、本の大きさ、出版年、頁数が記入されている。申込書を見てスタッフが閉架書庫から出してきた該当資料を閲覧室にて閲覧。館外持ち出しは不可。脚本の場合は脚本のファイルに綴じられた書誌情報を見て受け付けで申請できる。

- ・ 利用者：現在の会員数は約 200 名。個人会員はほとんどがマンガ愛好家。法人の賛助会員は出版社、放送局が多い。出版社は他社の昔の雑誌を閲覧することが多い。放送局は、昭和 20～30 年代のドラマの制作にあたって貸本屋の小道具用に表紙をカラーコピーするなどして利用。三口以上納めた賛助会員には館外貸し出しも可能。
- ・ 所蔵脚本の現状

現代マンガ図書館所蔵脚本の書誌情報はファイル 10 頁ほどに手書きでまとめられている。項目は「タイトル」、「原作者」、「話数」、「サブタイトル」、「メディア（映画の場合のみ）」、「脚本家」。

所蔵脚本の総数は 197 冊。内訳はアニメ 175 冊（TV162 冊、映画 13 冊）、

特撮ドラマ 14 冊、ドラマ 4 冊、映画 3 冊、資料 1。



所蔵脚本の一部

- ・ 脚本の寄贈元：コレクター、制作会社など。原作がマンガなので、マンガに関連する資料ということで寄贈されている。
- ・ 脚本の保存状況：脚本は数が少ないため、50 音順に並べて結わえて書庫に床置きされている。保存されている脚本の状態は非常に良い。
- ・ 今後の展望：明治大学ですすめている「明治大学国際マンガミュージアム（仮称）」開設計画があるので、将来的にはそちらに移行の予定。所蔵されている脚本については今回ご提供いただいた所蔵脚本のデータを脚本所在館の統合横断検索システムに情報を掲載するという形で所蔵館連携を図っていきたい。

2. 放送局との連携に向けた研究

各局のライブラリー部へのヒヤリング調査準備を開始。地方局から情報交換を重ね、データベース連携に御協力頂けるかなど検討を行った。

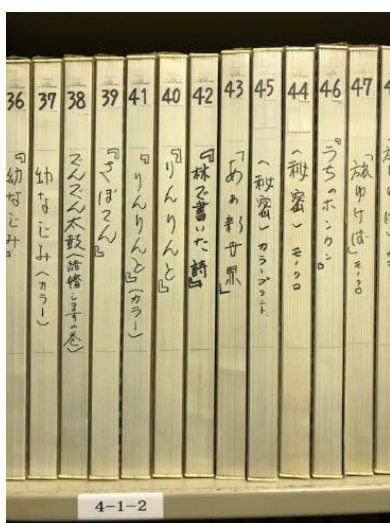
特に TBS 系放送局として独自にドラマも制作している「北海道放送 (HBC)」へヒヤリングを行い、東芝日曜劇場の脚本の寄贈も頂いた。同じく TBS 系の「中部日本放送 (CBC)」のライブラリー部からご連絡を頂き、脚本データベースとの連携 (統合検索) について問合せを受けた。

今後の連携研究の大きな課題は、目録の不明部分 (放送年月日など) を追完である。この点の一部の放送局に打診を行っている。次年度、改めてヒヤリングと共に、不明部分の調査依頼の申請を順次実施していきたい。

北海道放送では、数年前から藤女子大のインターンシップ活動において、学生たちが授業の一環として資料整理を行っている。作品ごとに台本、資料などが保存されている。撮影時の写真も数多く残され、地域の歴史資料としても見ごたえあるコレクションとなっている。



北海道放送アーカイブ資料室内



東芝日曜劇場の名作が数多く並ぶ。写真は「りんりん」と(脚本・倉本聰氏)のロケ風景

第7章 委員会の開催、シンポジウム

■検討委員会の開催

- ・ 第一回：2018年9月11日 15:00～17:00（於・日本脚本家連盟会議室）
- ・ 第二回：2018年12月25日 15:00～17:00（於・日本脚本家連盟会議室）

【検討委員会メンバー】

所属	氏名	役職
東京大学	吉見 俊哉	大学院情報学環教授（検討委員会座長）
日本大学	上滝 徹也	名誉教授（コンソーシアム副代表理事）
国立国会図書館	内海 和美	利用者サービス部 音楽映像資料課 課長
日本脚本家連盟	金子 成人	理事・著作権委員長
	柳井 克朗	事務局長
日本シナリオ作家協会	佐伯 俊道	常務理事
日本放送作家協会	香取 俊介	理事
日本放送協会	藤澤 浩一	NHK制作部 ドラマ部長
	阿部 康彦	NHK アーカイブス
日本民間放送連盟	田嶋 炎	番組・著作権部 部長
川崎市市民ミュージアム	氏家みち江	学芸員
放送番組センター	鈴木 貴尚	アーカイブ・事業グループ
早稲田大学演劇博物館	岡室美奈子	早稲田演劇博物館館長
国立映画アーカイブ	岡田 秀則	主任研究員・資料室長
映像産業振興機構(VIPO)	槇田 寿文	事務局次長
日本脚本アーカイブズ 推進コンソーシアム	池端 俊策	代表理事
	石橋 映里	常務理事・事務局代表
	入山さと子	理事・収集管理部門主任
文化庁	戸田 桂	参事官(芸術文化担当)付 芸術文化調査官
	森 考平	参事官(芸術文化担当)付 映画振興係長
	井上 和恵	参事官(芸術文化担当)付 映画振興係員
総務省	江口 雄太	情報流通行政局情報通信作品振興課流通調整係長
法律アドバイザー	福井 健策	弁護士 日本大学芸術学部客員教授
	松澤 邦典	弁護士

■シンポジウム実施

- ・日時：2019年3月23日（土）13時半～17時（13時開場）
- ・場所：法政大学市ヶ谷ボワソナータワー26階・スカイホール
- ・タイトル：『ドラマで振り返る「平成という時代」』
- ・主催 文化庁
一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム
- ・共催 法政大学大学院日本放送脚本データベース研究所
- ・後援 国立国会図書館、川崎市市民ミュージアム、NHK、日本民間放送連盟、放送文化基金、放送番組センター

■内容

- 主催挨拶 内藤 敏也（文化庁審議官）
- 来賓挨拶 羽入 佐和子（国立会図書館長）
- 主催挨拶 池端 俊策（日本脚アーカイブズ推進コンソシム代表理事）



内藤敏也氏



羽入佐和子氏



池端俊策代表理事

【第1部】

＜脚本アーカイブズ活動報告＞

事務局代表・石橋映里

＜研究利用班活動報告＞

丸山 岳彦（専修大学准教授・国立語研究所客員）

松下 晶子（専修大学院文研究科生）



丸山岳彦氏の研究報告

●基調講演

「平成という時代」—「失われた30年」をアーカイブする—

吉見俊哉（東京大学大学院情報学環教授）



吉見俊哉氏の基調講演

【第2部】

● パネルディスカッション 『脚本で振り返る平成という時代』

ドラマ「バブル」「29歳のクリスマス」から「逃げる女」「半分、青い。」まで

登壇者：鎌田 敏夫（脚本家、日本脚本家連盟理事長）

中村 雅俊（俳優）※出演依頼中

岡室美奈子（早稲田大学演劇博物館館長）

吉見 俊哉（東京大学大学院情報学環教授）

司 会：藤田 真文（法政大学社会学部長、NPO 放送批評懇談会 専務理事）

吉見俊哉氏の基調講演では、冒頭にスウェーデン「ヴァーサ号博物館」を平成と対比。平成時代の4つのショック「バブル」「阪神大震災とオウム真理教事件」「米国同時多発テロと国際情勢の不安定化」「東日本大震災と福島原発事」に翻弄された平成を「失敗の時代」ととらえ、失敗からどう学んでいくのか、その展望が熱く語られた。

第二部のパネルディスカッションでは、中村雅俊氏と鎌田敏夫氏がタッグを組んだ、伝説の青春ドラマ「俺たちシリーズ」を引用映像し、当時の若者と平成の対比しつつ、制作秘話なども語られた。実在の銀行破たん事件モデルにしたドラマ「バブル」を引用上映し、当時の世相をどう描いたのか、多面的に語られた。



司会・藤田真文氏



鎌田敏夫氏



中村雅俊氏



岡室美奈子氏



吉見俊哉氏

第8章 脚本アーカイブズ活動の今後の展望について

今年度から新たに始動した、第二期「文化関係アーカイブ構築の調査研究」を5年間(2023年まで)の活動としてとらえ、これまでのデジタル化やデータベースの研究、脚本収集・公開の実行などを継続実施しつつ、以下のポイントを重点事項として研究調査活動を進める。

■ポイント① 「日本が誇る脚本100選」の公開

データベースの統合化、放送局との連携を図る帰結として、ドラマ脚本のうち 代表作品100作を目標に、その全文(もしくは梗概)を掲載するWebサイトの構築・公開を検討する。完成はテレビ開始70周年(2023年)を目標に、権利処理を行いつつ公開を目指す。

■ポイント② 「映像とコラボしたイベントの定期的開催」

映像アーカイブと連携することが脚本の価値の見直しに大きく繋がる過去のシンポジウム等の成果を踏まえ、脚本アーカイブの有用性を掘り下げていく。

■ポイント③ 「脚本アーカイブズの多言語化および海外連携」

脚本の英訳化に続き、多言語化(中国語化等)による国際展開の道筋を開発していく。さらにジャパンサーチとの連携研究を深めていく。

■ポイント④ 「1980年以前の貴重台本の移管」

最終年度までに収集を完了し、入力、複本の除外選別、燻蒸などの作業を行う。

2022年度末に国立国会図書館への第二期寄贈(上限3万冊)が整うように実務的な交渉を進める。さらに、映画、演劇の他、アニメ脚本についても移管先の交渉を進める。

■ポイント⑤ 「データベースの移管」

現在、移管先での脚本閲覧は各館のOPACに掲載されていないことから、脚本データベースで検索され、閲覧請求がなされている。この方法では永遠に「脚本データベース」を運営しなければならない。そこで、5年間の研究期間にデータベースの移管管理先を検討し交渉することが必須となる。

※5年目以降の研究事業について

大学連携による研究費確保を検討する。

会員・賛助会員やスポンサーを募るなど、上記の発展的活動を行う。

【5年間(2018年～2023年)の活動案】

		2018年 (平成30年)	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	
基礎となる事業	脚本収集・デジタル化・移管	年間1万冊を目標に収集・入力・管理					公的機関 移管完了	
	脚本データベース(DB)拡充 あらすじ・キーワードの追加							
	表紙サムネイル・前付けの デジタル化および脚本DB掲載							
	オーラルストーリーの実施 脚本DBへの掲載							
	個別の作家・ジャンルの デジタルアーカイブ構築	山田太一 ほか						
デジタル脚本ライブラリー	統合検索サイトの検討・構築	検討開始		作成	公開			
	放送局との連絡会 脚本データの調査・データ統合	検討開始	発足				データ統 合	
	デジタル脚本ライブラリー 日本のドラマ脚本100選(仮)				準備会	権利処理	資金確保	
映像×脚本活用	「映像×脚本トークショー」 脚本関連イベントの検討	年1～回程度のイベント開催				テレビ70周年イベント		
	脚本と映像を連携利用した研究	年1～2回程度のイベント開催						
脚本アーカイブズの国際発信事業展開	脚本データベースの英語版作成	検討	作成					
	デジタル脚本の英語版作成 JACCサーチと連携公開	権利処理検討		権利処理と共に脚本全文の翻訳			公開	
	国際発信体制として 著作権典拠リスト作成	著作権管理団体と協力						
	2023年度以降の活動継続	会員制度・企業メセナなど資金源確保 の検討						

平成 31 (2019) 年 3 月 31 日発行
発行 一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

編集/執筆
石橋映里・入山さと子

〒102-0081 東京都千代田区四番町 4-9 東越伯鷹ビル 5 階
一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム
TEL : 03-5210-7029 FAX:03-5210-7021
Email : nkac@hosakkyo.jp <http://www.nkac.jp/>

本誌の無断複写（コピー）は、著作権上の例外を除き著作権侵害となります。



本報告書は文化庁の委託事業として、一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムが実施した平成30年度「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文化庁の承認手続きが必要です。